

13. 2. 5

業鑛炭石

報會助互

號二十第・卷二第

行發日十二月二十年二十和昭

鏡豐鑛山學校

鑛業石炭鑛業會

昭和十二年四月七日第三種郵便物認可（毎月一回二十日發行）
昭和十七年十二月十七日印刷本報昭和十二年十二月二十日發行

目次

卷頭言（南京陥落と鑛業報國）	堀	茂臣	（一）
鑛業報國運動實施に當りて	榎本	勝造	（二）
勞資協調鑛業報國精神を昂揚せよ	瀬尾	健二	（三）
石炭鑛業の重要性和災害防止の急務	竹内	禮藏	（四）
移動をやめて鑛業報國に協力せよ	野上辰之助		（五）
歐米より歸りて			（六）
本會記事			（七）
故金丸勘吉氏の奮闘史			（八）
鑛業報國運動協議會概況			（九）
鑛業報國運動第一回強調週間概況			（一〇）
十一月卸小賣物價並に生計費指數			（一一）
石炭船運賃			（一二）
モダン熟語註解			（一三）
雜錄			（一四）
互助會石炭株式會社分析試驗規定其他			（一五）
支那の埋藏炭量と北支出炭高其他			（一六）
石炭鑛業權設定			（一七）
互助會詩歌俳柳壇			（一八）
炭界日誌			（一九）

十二月號

行發會助互業鑛炭石



氏吉勳丸金 長會敬

九州電氣軌道株式會社



故會長金丸勸吉氏



金丸會長の逝去を悼む

石炭鑛業五助會々長、五助會石炭株式會社々長金丸勘吉氏、忽焉長逝せらる。洵に哀悼の情に禁へざるなり。嗚呼哀哉。

回顧すれば、氏は立志傳中の代表的人物にして、幼少時代よりあらゆる世の辛酸を誼め、長ずるに及んで鑛業報國の大志に燃へ、文字通り苦闘又苦闘其の烈々たる意力は、掘り出す鑛石の如く堅く、筑豊の地下に埋れる脈々たる炭層の如く盡きるところを知らず、其の堂々たる体軀縦横の才機は、筑豊鑛業界の重鎮中島徳松氏、故吉田磯吉翁の知遇を得、遂に今日の大をなし、業界に毅然たる筑豊炭都の基礎を築き、日本石炭鑛業發達史上不磨の功績を残せり。

今や我國は超非常時に直面せる今日、筑豊石炭鑛業界の大立者たる此の世になし、ひとり筑豊鑛業界の損失たるのみならず、實に邦家の一大損失なり。嗚呼哀哉。

故金丸勘吉氏略歴

金丸勘吉氏は、明治十五年縁も深き門松に明けゆく新春を壽ぐ一月元日屏蘇の香薫々たる中に、田川郡弓削田村後藤寺の郷金丸壯三郎氏の長男として呱呱の聲をあげた。幼にして慧悟、長じて爲人剛毅不屈膽斗の如く、而して機略縱横、軀幹堂々態度壯重にして自ら大丈夫の風格備はり、早くも老巧長者の俦あり。

筑豊石炭鑛業界の重鎮中島家の創業に參画して前代識士高野喜六氏、義弟末松慎一氏と共に「三人集」の稱あり。後獨立して遠賀郡岡垣村海老津炭坑を創業、次で平山炭坑、大隈炭坑、鞍手木屋瀬及線等大小炭坑を經營す。昭和九年元且を卜し、金壹百五十万圓の巨資を投じて、金丸鑛業株式會社を創立自ら社長に就任す。

これよりさき、歐洲大戰後の恐慌襲來のため中小炭坑の大打撃を蒙るや、敢然起つて、野上長之助、藤井伊藏氏等と共に、昭和五年筑豊六郡に散在する六十餘坑を打つて一丸となし、以て大財閥の攻勢に拮抗する石炭鑛業五助會を結成し、推されて會長に就任、其の團結力によりて撫順炭輸入防止運動にも美事成功、以て日滿經濟統制の機運を醸成し、昭和十一年販賣統制機關として、五助會石炭株式會社創立せらる、や取締役に就任本年五月中島社長辭任の後を承けて社長となる。尙他に國光火藥工業、アサヒメタル各社長、若松商事相談役等、氏の如何に活動力の旺盛なりしかを偲ばれる。



言頭卷

南京陥落と鑛業報國

日本は今や名實共に重大時局に直面してゐる。今次の支那事變は、上一天萬乘の大君の御稜威と忠勇無比なる無敵皇軍の威力、銃後を護る一億の國民の忠誠とによつて、北支は固より中南支に於て、連戰連捷破竹の勢を以て進軍又進軍、去る七月七日蘆溝橋に於て日支兩軍の衝突以來僅かに半歳を出でずして、全支の心臟部たる上海を抜き、今又首都南京を陥落せしめ、我國戰史上特筆大書すべき空前の盛儀南京入城式が舉行せられた。

然るに頑迷無恥なる敵將蔣介石は、逃犬の遠吠への如く、飽迄長期抗戰を策しつゝあり、英米佛も亦機會だにあらば、鴛鳥の翼を東亞の天地に延ばさんとして虎視眈々たる状態なれば、何時如何なることで、より重大なる非常時に直面するやも圖り知れざる情勢である。

而して、世界大戰を契機として、近代戰爭は經濟戰であり國力戰である。この意味に於て、銃後の護りを固むべき産業戰士、殊に軍需工業、化學工業、電力業を初め、其他諸産業の原動力たる石炭鑛業の使命たるや、實に重且つ大である。

今回の福岡鑛山監督局主催の鑛業報國運動は、最も時宜に適應したる運動なれば、吾等炭業に従事する者は、協力一致炭業報國のため勇往邁進すべきである。

(鳴 濤)

鑛業報國運動實施に當りて

福岡鑛山監督局長 堀 義 臣

今回管内全石炭を通じ十二月五日を期して鑛業報國運動を起すこと、相成りましたに就いては特に本紙を通じて一言申し上げたいと思ふのであります。

支那事變の勃發は本邦鑛業界に甚大な影響を與へたのであります。我が國軍需品製造の大原動力補給の役割を果しつゝある我が管内の石炭鑛業界は最も深刻な影響を蒙りまして著るしく其の使命達成を制約せられつゝある状況にあるのであります。

時局の重大性に鑑みずれば之が對策は最も急を要すべき重大喫緊事であると考へらるゝのであります。此の點吾々業界に臨む者の日夜樹心し居る處でありまして管内當業者各位の苦心も亦想像に難からざるものがあらうと思ひます。

惟ふに今次事變發生の根源は其の由つて來る處極めて遠く且つ深いのであります。皇國の理想達成の爲めには何如なる困難にも堪ふる覺悟を以て國民の一人々々が各々の立場に於て赤誠を披瀝しなければ時艱克服は期し難いと考ふるのであります。我が帝國の大方針は長くも去る九月四日の臨時帝國議會開院式に於て下し賜はりました御勅語によつて拜察致しまするも昭々



として明かなる處でありまして我々國民は、陛下の明示し給へる御趣旨を奉體し帝國の目的に向つて協心戮力奉公の誠を致さなければならぬのであります。

申す迄もなく近代戦争は武力戦であると同時に經濟戦、思想戦でありまして、一言にして之を申しますならば國力戦と云ふべきであります。國家の強力な戰鬪力は國家の經濟的増強、舉國一致の國民精神の緊張によつて始めて齎されるものであります。今や我が忠烈無比の皇軍は全支に兵を進めてその威力を遺憾なく發揮して居るのであります。陛下の御稜威の然らしむる處とは申しながら銃後産業人の愛國的活動も亦か與つて力あるものと云ふべきであります。石炭鑛業が戦争の遂行上缺く可からざる重要産業であり又各種軍需工業の基礎事業として如何に重大なる役割を演じて居るかは申す迄もない所であります。今や皇軍は着々戰果を擴大して克く所期の目的を達成しつゝあるのであります。事變の終局は未だ豫斷を許さぬばかりでなく國際情勢の變化又逆塔し難いものがあるのであります。事變今後の見透しは全く困難であります。斯かる時局の重大性を考へます時鑛業界の責務は愈々重且つ大と謂はねばならないと思ひます。

鑛業界に於ける各種の困難な事象は獨り鑛業界のみに起つた現象ではないのであります。あらゆる事業界を通じて起つて居るのであります。大國策遂行の爲め敢然この困難を克服するのは我々の國民的責務であります。宜しく鑛業界にある者は何として、も此の困難を排撃して其使命達成を期せなければならぬのであります。然しながら現下非常時局に對應して其の使命遂行を遺憾なからしむる爲めには獨り事業のみの力を以てしては不可能でありまして直接鑛業部門の第一線に活躍せらるゝ従業員諸君の協力を俟たなければならぬのであります。兩者が完全に一致團結し自己の職分を通じて時艱克服の目的に向つて立ち上らなければならぬのであります。即ち従業員各位は眞に時局の重大性を認識し自己の職責の重大なるを思ひ大いに勤勞精神を作興して業務に精勵し事業家各位は之等勤勞大衆の勞働力にのみ依存することなく作業技術の改善を計り勞務管理の徹底を期し従業員各位の持久性ある勞働力の維持培養のため凡ゆる方策を廻らさねばならぬの

であります。斯くしてこそ始めて時艱克服が期待し得ると考ふるのであります。
福岡鑛山監督局が第一次の運動として管内石炭山に向つて鑛業報國運動を起すに至つた趣旨も亦此の點に存するのであります。各位は克く本運動の趣旨を理解せられて精勵奮起以て本運動所期の目的を達成して鑛業報國の赤誠を致されんことを希望する次第であります。

尙最後に私は鑛業部門にある各位のみならず一般人士に於かれても鑛業が産業界に如何なる役割を持つものであるやを克く理解せられまして本運動に協力あらんことをお願いする次第であります。



勞資協調鑛業報國 精神を昂揚せよ

福岡鑛山監督局鑛政部長 榎 本 勝 造

今回福岡鑛山監督局に於て昭和十二年十二月五日を期し管内全石炭山に對し鑛業報國運動を実施することとなつた。抑も本運動實施の動機は今時事變によつて管内各炭礦より多數の應召者を送り出し、それ等應召者は日頃鍛へた鐵腕を揮つて暴戻支那膺懲の爲め南支北支の各戰場を馳驅して居るのであるが、其の勇戰振りに對しても晏如として居ることは我々の國民的良心が許さぬ。それ等戰場で働く同僚に劣らぬ愛國的至情を以つて産業戦線を確認することは我々銃後人の責務でもあるし又事變の進展に伴れて石炭の需要が著るしく増加した爲め此の限られた少數の勞働力で其の需要に應ずること

は仲々困難な事となつたが、石炭の我が産業界に持つ重要性から見ても何とかして出炭の増加を圖るは我々産業人の義務でもあるので、茲に鑛業報國の一大運動を起し當業者並に従業員各位の愛國的熱情に訴へ現下の産業的難局の打開を圖ることとなつたのである。

従つて本運動の目的は勿論現下激増せる石炭需要に對應する爲めの出炭増加を目的とするものではあるが、決して出炭増加の爲めには手段を選ばず遮二無二之を強行せんとするものではない。斯かる遣方は生産力を破壊し却て出炭減を來す虞れがあるからして此の際決して採るべき策ではない。我々の行はんとする所は寧ろ事業主及び従業員各位が夫々産業的立場を十分に認識し滅私奉公の精神を以て現下に於ける我が産業戦線を再檢討再吟味し之が整備強行を行ひ之れによつて所期の効果を具現せんとするのである。従つて本運動の目的を具體的に要約すれば従業員各位に對しては其の産業的立場を十分に自覺して貫ひ夫々己が業務に魂を打ち込み其の業務を通じて盡忠報國の誠を致さるゝやう特に注意を喚起する事であり又事業主に對しては産業大衆の非常時的負擔を成るべく軽減する爲め出来るだけ作業を機械化し設備及び組織を改善し其の他生産管理に意を注ぎ之が徹底的改善を計ると共に鑛山に於ける人的智能を總動員して産業技術の進歩改善を期し此の機會に事業自體の質的向上を期するやう特に事業主の奮起を促さんとするに在るのである。即ち換言すれば本運動は鑛業報國精神を昂揚しそれによつて勤勞精神を作興し生産管理を改善し作業技術の向上を求め現下の激増した需要に應じ得らるゝだけの出炭をなさんとするに在るのである。

唯茲に注意すべきは如何に産業大衆が自己の職分に格循しても、又事業主が如何に設備及び組織の改善を行つたとしても勞資双方の精神的團結がなかつたならば決して所期の効果を擧ぐることは不可能であると云ふことである。

假令一時的効果を擧ぐる事が出来たとしても決して永續するものではない。茲に於てか、勞資双方が滅私鑛業報國の精神を以て産業協力を期せねばならぬのは當然である。それには勞資間の階級的偏見を捨て、相互に理解し合ふことが絶

對必要である。

今次の鑛業報國運動は勿論産業大衆の犠牲に於てのみ之を行はんとするものではない事は以上によつて大體推察し居らるゝと思ふが石炭事業は本質的に勞働力に依存すること特に大なるものがあるからして勢ひ産業大衆の負擔が幾分加重されることは止むを得ない所である。従業員各位は自己の雇傭せらるゝ事業主が國家社會から課せられて居る出炭増加の責務を完全に履行せしむる爲め或程度の犠牲を甘受することは己が職分を通じての國家奉仕であり、事業主は之等産業戰士の犠牲的奉仕に酬ゆるに經濟的生活の安定を以てすべきである。即ち勞働者の唯一の財源たる其の鐵腕を損せざるやう災害を防止し保健衛生に注意し休養榮養等に關する福利的施設に格段の注意を拂はねばならぬ。

斯くしてこそ勞資は完全になつちりと組合つて協力一致鑛業報國に邁進し得らるゝのである。本運動の目的中に特に『併せて健全なる勞働力の維持培養を策し以て時艱克服を期す』なる一句を入れた所以も一に勞資間の完全な理解提携を基調とした新しい産業秩序を建設し之れによつてこそ始めて非常時克服が出来るものと信じたからである。

私は本運動實施に當り當業者並に従業員各位が本運動の趣旨の存する所を十分に理解し大いに時局の重大性を認識し大乗的見地より本運動の美果を收めらるゝやう特に其の善處を要望して止まぬものである。



石炭鑛業の重要性と 災害防止の急務

福岡鑛山監督局鑛業課長 瀬尾健二

現下の時局は眞に非常時局であり國民何れの部門にあるを問はず異常なる緊張と努力を要する時なる事は茲に喋々を要せざる事と思ふ。

軍需工業と申せば、直接軍需品の生産を意味するので、之が重要生産業たるの所以につきては一般國民の認識も普遍的であり、少しの疑念もない様であるが、更に進んで一般鑛業となるとそれまでの認識がなく、軍需工業とは縁遠いものゝ如く解する向きも少からず、之が生産が現下焦眉の急たるに思ひ至らざるは痛恨の至りと申すべきである。殊に我が九州に方ける鑛業の大宗たる石炭鑛業が現在非常なる困窮の状態におかれ、人的や物的あらゆる方面に於て恵まれざる状態の下に於かれ、然も事實に於てこの時局に重責を負はせられて居る實情が之を證明してゐるのである。

石炭鑛業に就いて考へまするに石炭は普通一般には燃料として熱源としか見られてゐないのであるが、現在の工業は左様に簡單なものではなく石炭を根元として得らるゝものは、骸炭及びその副産物肥料、工業藥品、火薬、染料、香料、化学、兵器、寫眞藥品等その種別枚擧に遑なき位であり、數多くの軍需品若くは之が生産に必要な物である。若し一朝この資源を失ひたる場合や、その生産の減退を招來したる場合を想到せば、危惧の念を禁じ得ない。

石炭鑛業が軍需工業の基礎的産業である否寧ろ廣義の軍需工業夫れ自體なることを了解し得るのである。殊に戰時に於

て必要なる液體燃料の對象としての石炭の重要性に至つては、石油の天然資源に恵まれざる我が國に於て特に切實なるものがあるのである。

従つて石炭鑛業に就いては事變前より益々増大せんとする需要に對し増産計畫の樹立を見、各般の施設の整備を計り、國策に順應せんとしつゝあつたのであるが、その途上に於て今次の事變を觀たのである。

元來石炭の増産には相當數の従業員、係員の充足を必要とし機械器具類の物的設備の補給を前提とした計畫なるが故に今次多數稼働者の應召を見、機械類にしても軍需工場に優先せらる結果茲に炭業非常時を來したる次第である。

この現下の時局に對して吾々の爲すべき事は多種多様であり、何れも國家總動員の旗印の下に邁進すべきは當然であるが、この際最も簡單にして實行し能ふ事柄を實踐して頂きたいと思ふのである。

労働力の補充對策その他に付ては勿論夫々の機械に於て有効なる方途を講ぜらるべきを信するのであるが、私と致しましては自己の職責に鑑み、この際一段の能率増進と災害防止を強調致したいこの事を鑛業報國運動の主眼と致したいのである。

各炭坑に於てはその採炭の技術に於ては相當進歩して居るのではありますが、この際尙更之を改善し、機械化を計り増産に資するの餘地なきや否や検討を要すると思ふのであります。

切羽の集約や、採炭の合理化により幾分なりとも人力を省き得たならば、誠に結構と思ふのである之は炭坑技術者に課されたる大切な責務と信するのである。現在の採炭技術が前回の石炭不況時代の間に、格段の發達を見たのを想へば、この時局がこの意味に於て、一大試鍊とも見らるゝのであります。

次は事故防止の問題であります災害防止はその効率は百分を要するとの喻へもあり、平素の操業上その完璧を期すべきは當然であるが、今日の時局に於て其の必要なるを特に感ずるのである。

労働力の充足の方面から觀ても能率増進の見地から觀ても、この際は一人でも死傷者を減じて頂きたい。

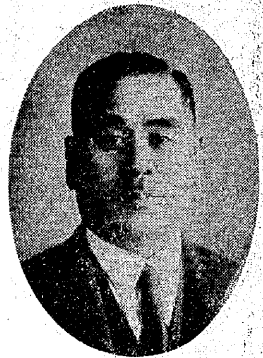
災害の種類によつては、その坑口の致命的打撃となる場合もあり一朝にして出炭を阻害し出炭報國の目的に副はざる結果となり多數の従業員を喪失するに至らば、労働力の充足は臺無しと相成るのである、最近見聞する災害の實例に徴しても徒らに出炭に驅られ、保安を無視した採炭の結果、瓦斯の蓄積を來し不幸災害を見たるが如き事も少くないので、出炭計畫に當りては統制ある計畫を樹立し周到なる管理の下に實行せられん事を切望する次第である。

労働者の不足は新參者の増加を來し質的にも低下を餘儀なくせらるゝ現情に鑑み、出來得る限り従業員は一定炭坑に勤續するの習慣を助良し係員の不足を補ひ共に戒めて事故防止に精進したいのである。

防災運動と出炭増加は車の兩輪の如く、今日之が兩立しない等云ふ不見識は絶滅して頂きたい。

今次事變に際し皇軍は北支に中支に赫々たる武勳を建て國威を中外に發揚せられて居るのであります、吾々銃後の國民、殊に國運消長の使命を制する炭業に従事するもの、官民と云はず、勞資と云はず、各々その職分に從ひ報國の誠を致すべき秋と思ふ次第である。





移動をやめて 鑛業報國に協力せよ

互助會石炭株式會社
專務取締役 武内禮藏

今回支那事變勃發するや、我が皇軍は暴支膺懲の兵を進め、北支は固より中南支に於て破竹の勢で連戦連捷遂に支那の心臟部たる上海を陥れ今又首都南京を陥落せしめたが、蔣介石は飽迄長期抗戦を放送しつゝあり、四圍の情勢は一觸即發の現状なれば、何時如何なる難局に直面するやも圖り難き状態である。

斯の如き現下の情勢なれば、吾々鑛業に従事する者は銃後の守りを固める意味に於て戦時經濟体制下に於ける諸産業發展のため其の必要に應じてどしどし増産すべきである。然るに今回の事變のため炭坑労働より多数の應召者を出し、其他種々の事情によつて労働力は減少し、従つて今夏以來出炭も漸減の状態なれば、この非常時局に際して實に重大な問題である。

今回福岡鑛山監督局主催で鑛業報國運動を起されたことは最も時代に適應した催であつて、吾々は双手を擧げて賛意を表し、我が互助會所屬炭坑は全従業員を總動員して之れに協力すべきである。

我國は今一方面に物資が缺乏してゐる、即ち機械類や特殊原料品が之に該當するのである。又我國は技術者や労働力が最近甚だしくなつた。之は實に重大な問題である。現代の戦争は武器兵力は勿論であるが、結局は國力戦であり經濟戦で

ある。而して各種産業の原動力ともいふべき石炭は、現在までのところは圓滑な供給が行はれ、軍需工業を初め其他諸産業に不便不足は感ぜしめてはゐない、然しさう潤澤ではないのである。

事變が若し支那事變以上に進展して重大危局が到來でもすると其の供給は頗る危険性がある目下政府も又民間團體でも石炭増産五箇年計畫を立案してゐるが、若し超非常時ともいふべきもの即ち英國又は蘇聯との衝突が急激にやつても來ると大變である。現在の設備と労働力では之に對應する事は頗る困難である。故に我等石炭の事業に携はるものはこの際よく石炭の國家的重要性を認識すると共に、もつとしっかりと紐を締めつけて日々の業務に携はらねばならぬ。鑛業報國運動が開始されたのは實によい機會だと思ふ。

現在の炭坑事業の情態を見るに、まだ改善すべき點が多々ある。設備は勿論だが、能率の増進に、災害の防止に幾多努力すべき點があるが、私は此處に是等を遂行するための一つの障害ともいふべき労働者諸君の移動問題に就いて一言してみたい。

當局の調査によれば、福岡鑛山監督局管内即ち九州、山口地方での労働者移動の状態は驚く勿れ一年間に全労働者數と同程度の數に達して居るのである。即ち管内に十萬人の労働者が居るとすれば、之と同數の十萬人が他の炭山に轉ずる譯である。元來炭坑の仕事は石炭を採掘する點では相違はないが、どこかの炭山でも炭層や坑道等に色々の違つた癖があるので、新しい炭山に來ると間もなく災害を受ける人が多い、統計によると一体に永く同じ炭山に居る人程災害を受ける事が少く六ヶ月以内の人が一番怪我が多いのである。尙ほ他の炭山に移動すれば炭山から炭山へ行く間に幾日か休む爲に働く日數が減少し、又新しい炭山に行けば其の炭山になれるまで出炭量も減少する譯だから、二重に労働力の大きな國家的損失である。故に今回の鑛業報國運動をよき機會として、労働者及び幹部諸君が一致協力移動の減少に努力せられんことを希望するものである。



歐米より歸りて (承前)

野上鑛業株式會社社長
互助會石炭株式會社副社長 野上辰之助

本稿は去る十一月一日上野池ノ端雨月莊に於て元商工政務次官勝正憲、逓信政務次官田島勝太郎、日産重役保田宗太郎、昭和石炭社長古田慶三、石炭聯合會常務理事茂野吉之助の諸氏が發起人となり官民五十餘名出席、野上氏歸朝歡迎會席上に於ける視察談の概要にて講演通信社長代議士岡野龍一氏より本會報に掲載方依頼せられたものである。

伊太利と同様又徹底せる ヒットラーの諸政策

又ドイツは發明の國でありまして、其發明研究は次から次と生み出し、現在では鐵の代用品の研究を専らやつて居るのでありますが、先には眞鍮の代りにアルミニウムを使用し、最近の目覚しきものとしては人造ゴムであります、是は山毛櫨の木から採るさうであります、總て秘密

になつてゐるので、詳細は知るを得ませぬが、天然ゴムよりは遙かに耐久力も性能も宜いさうであります。其他人造絹、人造硝子の製造、又は普通の樹木よりも砂糖を採り、空氣中より食物を採る研究、それから從來の水申聽音器と異なる水中聽音器の發明等あらゆる研究をして居るのであります。併し大學のみが學問の專賣所に非ず、研究のみが大學の使命ではないといふ所から、大學の數を減じ、今日で

は普通學校より各種の専門學校を獎勵し、學問の研究以上に人格の陶冶に心を致して居るのであります。要するにヒットラーの教育方針は「人を造る」ことに魂を打込んでゐますから、高等遊民を作る大學などを廢止して實業教育に重點を置いたのです。従て是がために國民の負擔も輕減して居るのであります。

於て借家を建て、之を安く貸與し、或は月賦拂を以て自由に拂下げる等、農民に對してはあらゆる待遇をなして居ります。

年末寄附金募集運動

なほヒットラーの一つの變つたやり方と致しまして、年末になると貧困者に支給する爲め、自ら各大臣を指揮して辻々にブリキ罐の金入れを持つて寄附を求め、ヒットラー氏自身は自動車で徐行して宣傳するのであります。其の集まる金が一度に三、四億マ르크(約五億圓)位に達すると云ふことでありまして、其の中には會社、大資本家の寄附業に於て、居ると言はれて居るのであります。

勞働爭議調停政策

精神教育方面に於ては國權の恢復、國民精神の作興、新國民の養成等々の爲め、學校以外に於て精神講話等の手段にて徹底的精神訓練をしてゐますが、特に注意すべきことは、ヒットラーが日本の強い點を深く研究の結果、我が國の家族制度に着眼した點であります。即ち日本には皇室と云ふ國民の中心があり、家族制度の美點を持つて居る。ドイツにも獨逸の中心を作らねばならんと云ふので、血を尊ぶ運動を起したのであります。即ちドイツ民族の血を純潔ならしめる爲に、他民族との結婚を禁止してあります。彼のユダヤ人に對する彈壓も此の趣旨の現はれであります。又農民を非常に尊んで居りまして、田舎の祭日にはヒットラー氏自ら態々訪問して、その賑ひを盛大にし、又政府に

次に勞働爭議に對しては勞資協議會を設置してあります。併し國家に害あるものは法律を以て一切之を禁じて居ますが、此勞資協議會にはナチス黨員の幹部と勞働者代表、資

本家代表の三者が協議の結果勞資協調に依つて總ての運轉を行ふのであつて、争議の如きは皆無であります。ヒットラー氏が政權を握つた當初は六百萬からの失業者があつたが、今日では七十萬弱であります。併しその中から不具者廢疾者を除けば殆ど失業者はないのであります。

即決裁判

裁判の方に於ては普通、裁判所の外に即決裁判をやるやうになつて居りまして、餘り複雑性を帯びない事件は即日即時、即決裁判所で判決を言渡す。是が爲に辯護士の仕事は殆ど無くなり、其間多少の弊害もあるかと思ひますが併しドイツの現在の國情に於ては此即決裁判の結果も完全に行はるゝことと思ひます。繁文縟禮を徹底的に嫌つておる所は實に面白いと思ひました。

財政々策

財政方面に對しましては収入支出を三ヶ月毎にヒットラー氏自ら調査をし、それが爲か毎年十億マークの増収を見

て居るのであります。殊に本年の豫算は一五〇億マークで明年は一六〇億マークの増収見積りださうであります。尙ほ國力充實政策遂行の爲に直接税、間接税を相當思切つて設け、其の他國民收入の二割徴収と言ふことになつてゐます。

國防施設完備状態の一端

また二百人以上を使用する工場會社に對しては、戰時爆彈、毒瓦斯に對する防衛の爲め、一個に約二〇〇—四〇〇人を收容し得る設備をなさしめて居ます。此れは爆彈に對して堅固なる圓筒形のものでありまして、圓筒形を用ゐましたのは通風がよく中の空氣を常に清淨ならしめるため、防毒マスクの必要がないとのことであります。斯の如くヒットラーの政策の徹底には驚嘆の外ないのであります。

フランスの内情

次にフランスのことを一言附け加へますが、フランスは「花の巴里」の名の如く、國民そのものも柔弱であり、政府

は共産黨であるといふことも豫て聞いて居りましたが、フランス人は貯蓄心に富み又困苦缺乏にも堪え、開墾可能地は國土の隅々まで徹底的に開墾し、國民個人々々は何れも富んで居ます。一例を申せば靴下の破れた先を結んで、柱に釣し、之を貯蓄筒として金を貯めて居るやうな實例もありまして、政府こそ金は少いが、個人は非常に裕福である又政府の共産黨であるといふのは、其の實擬裝であつてさう稱さねば國が治らぬといふ所からさう稱してゐるだけ實際は政府大官は土地を買込むし、別荘も建て、金も貯へてゐて、決してロシア共産黨のやうな建前ではありませぬ又國防方面に於ても相當ドイツの驚く位の充實は致して居るのであります。

英國のオックスフォード大學

尙ほそれより英國に着きまして、翌日オックスフォード大學に行きましたが、是は御承知の通り、千年の歴史を有し、六百年前に文明式な建築に改造を加へたといふことであります。此大學は古き歴史と壯大なるが故に有名である

ばかりでなく、同大學出身者が大政治家、大實業家、大宗教家、大學者等あらゆる世界に於て傑出した者が現はれて然も其人格の何れも崇高なることは人の能く知る所であります。其學校の中央に説教教室があつて、卓上には何れも聖書が置いてあります。宗教を本として所謂精神の教養を基礎にあらゆる學課を爲す爲めに、人格教養共に傑れた人が輩出するのであらうと思ひます。そこで校長は所謂カンクベリーの大僧正であつて、英國に於て最高位置を占め、又總理大臣の上にサインをする等其の權威は仲々大したものであります。かゝる英國に於てすら、現今に於ては實質的には一黨を以て政治をしてゐるのであります。此の點日本に於ても十分に検討を要すべき事柄でなからうと思はれます。

事業經營の哲理

斯くの如く全歐洲主要列強を見渡して、我々の痛切に感ずる一事を申し上げます、イタリーと言はず、ドイツと言はず、所謂全體主義と申しますか、個人よりも國家を先

にし、又個人の利益より公共の利益を先にする。即ち國家あつての國民であるといふ觀念から國家本位で總てをやつて居るのであります。國家全體が犠牲奉公の念に燃えて居ることでもあります。例へば戦争其他有事の際には、國民大衆は一死以て犠牲となり、有産者は尙且その財力をもさげ御奉公するといふ氣持が強いであります。日本でもまだ大いに緊張しなければならぬと存じます。殊に私共實業家として痛感したことは、事業に對して私共の抱いてゐた觀念について、あります。即ち從來の考へ方では、多くは事業經營の目的は單に巨富を積んで、之を子孫に残すといふ風に、利己主義でありましたが、今日はそれではいけないのであります。彼の國の實業家は事業を單に身分のみの事業といふことでなく、我々が事業を經營することは、お互ひの社會生活の必要上より、換言すれば國民生活安定の手段として必要な事業を國家より托されて居るのであるといふ風に考へねばならぬと思ふのであります。國民としては犠牲報國の觀念を堅持し、國家隆昌の爲めに努めねばならぬと思ひます。全般の事業家が斯の如く

事業經營に對する考へを抱く様になれば資本家横暴などの聲も聞かなくなり、國民思想の善導上好結果を齎たらすと、信じます。

非常時局に處する覺悟

顧みまするに、我が日本は徳川幕府三百年の鎖國政策により進歩をさまたげられ、又島國である爲め國民も目覺めなかつたのであります。是れが爲め、維新當時は、諸外國に較べてわが國の文化は非常に立遅れの状態でありました。然し開國進取の氣風醸成されてより此方、歐米の文物一時に輸入され爾來長足の進歩を遂げ、列強の一に數へらるゝに至りました事は、大いに國家の爲め慶すべき事であります。

歐洲各國の如く多數の國民が僅かの境界により互ひに相接近し競争してゐるのと異なり、わが國は四面海を以て圍繞されて居る關係上、世界的に見て刺戟を受けること遙に遠く、自然歐米に比し、常に遅れがちなのは洵に遺憾に堪へない次第であります。尤も私等が洋行中に勃發しました

日支事變により、政府は近衛首相初め閣僚が熱心に革新政策の實施に努力されつゝある事をきゝまして、大いに意を強くした譯であります。今日歐米に於ては精神運動も勿論ですが、それより一層實質的政策の實行を促進してゐるのであります。現に獨逸は不言實行を主とし國民一致協力國力の充實に努めてゐるのであります。

政黨の奮起を望む

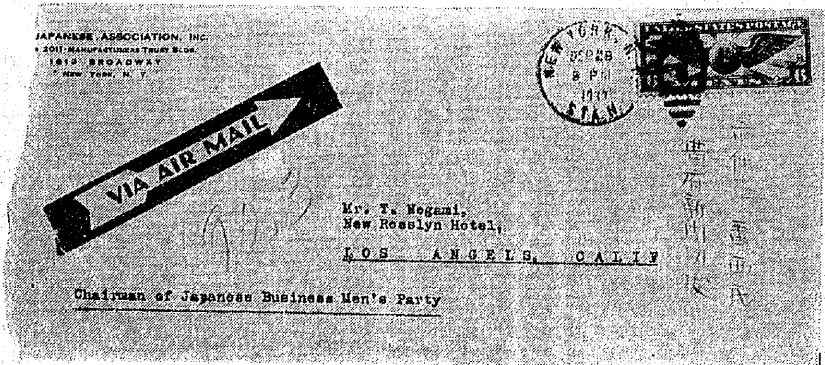
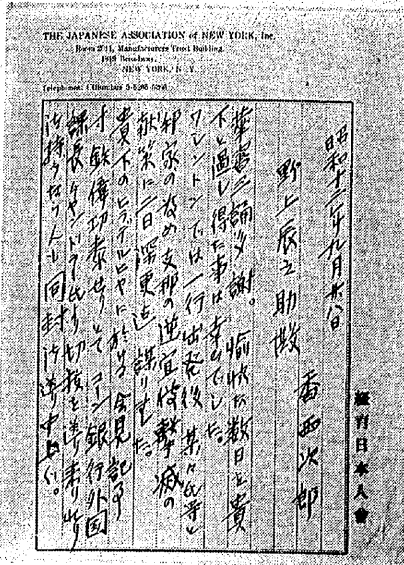
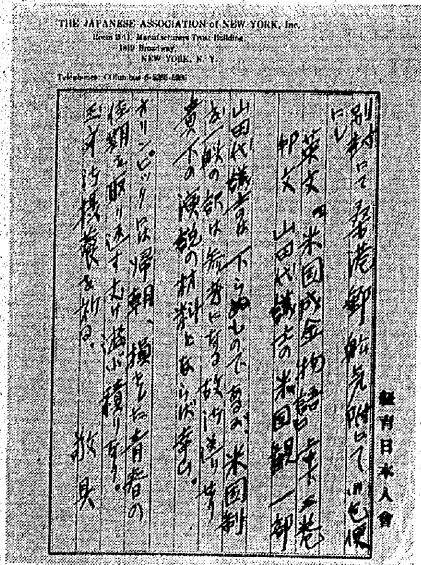
かく歐洲の現状をのべますと歐米に視察に行かれた人々の中には、或は我が日本は、政治といはず、文化と言はず、後れて居ないと申さるゝであります。然し今日の歐洲は一ヶ月前の歐洲と其の後の歐洲とを比較しまするに實に急激な進展をとげているのであります。一例を申上げば獨逸伊太利の如きは毎日新法律新政策二三を出してゐる現状であります。我日本が物質文明に於て、歐米のそれに遅れて居ないと云ふのは、會社商店工場等の民間個人又は法人團體が、自己の海外視察研究の結果を十分自己の經營組織内に吸収し消化してゐるからであります。政治方面

の文化については、我國の現在の政黨の状態では、海外視察に行つて研究してもその文化の長所をすぐさま政治形態内に吸収消化しない爲め、假令物質文化の方面に於ては歐洲の諸國に遅れてゐないでも、政治方面に於ては矢張り遅れてゐるのであります。現に我が陸海軍の如きは、此の文化吸収消化の可能な組織になつてゐるので、列國に遜色のない非常な進展をみてゐるのであります。

歐米は前述しました如く、一本の溝一つの道を距て、國境をなしてゐるが故に武力戦争は行はれてゐなくとも、國防と經濟的競争には全國民總動員で當つてゐますことは事實であります。此の意味に於て、歐洲は日々に進歩しつゝあるのであります。一年前の歐米と今日の歐米とは非常に相違してゐることは見逃し得ない事實であります。

國際日本と宣傳戰

又我が日本が平和な時と戰時状態に於ける今日とでは、歐米を視察する目も自らその見方が違ひ、現に日本が今戦ひを開始中なる時、これら諸外國人が如何なる態度を持し



明 說 眞 寫

紙數聞新流一の國米て以を費自中行旅察視國米が氏上野は眞寫のこ
表發を見意くべむしせ識認を場立の本日るな正公に關に變事那支に
れさ載掲に紙聞新が響反の其し起捲をノヨシーセンセ大一に米全し
茲をのもるけり來し附送りよ氏郎次西香の會人本日育組で分部一了
るあでのもたし録採に

てゐるか、又諸外國人の感想は如何にあるや等研究に値するものがあるのではあります。現に相手國たる支那外交振りは實に徹底したものとと思ひます。今日歐洲では宣傳は一つの政治に織込まれ、宣傳大臣さへ存在してゐます。假へば樂につきましても、その製造原價より宣傳（廣告）費用の方が多く使はれるやうでありまして、それが多ければ多い程、その藥の賣行きは増加してゐるのであります。今日歐洲に於てはたゞ戦争外交等に宣傳が必要であるばかりでなく、平時あらゆることに就て、宣傳の競争をしてゐる現状であります。此際政府と力を併せ、我が國に於ても、今一層奮闘努力して、一日も早く此の國難を打開せねばならぬのは云ふ迄もありませんが、この宣傳に一段の注意を要すると思ひます。

最後に私共視察團が日本を出發して後「北支事變」が勃發し更に日支事變となり時局は益々重大となりつゝある時我々は宛も歐米各國を旅行して居ましたが我々一行は三十一名の多人數であり、亦木下理事が彼の地に六回の視察外遊の經驗を持つて居ましたので、極東問題に敏感となつて

居る列國に於て直接各國人に接し國民外交の一端を努め得た事は、我々視察團一同大ひに欣快に堪へない處であります。

殊に我日本は島國である爲め隣國の摩擦が直接なき處より全國民が世界の改變を熟知することが遅い爲め全世界各國が國民總動員して、日進月歩國力の充實に邁進して居る此際我日本實業家諸賢各位が自ら親しく歐米を視察し新智識を深めらるゝ事は、國力の發揚の上に偉大なる御貢獻ある事と思ひます。

尙一言御詫び申上げたいことは、何分にも外國語に通ぜず僅か四ヶ月の短時日に世界を一週致しました爲め、各方面共充分の調査をなし得なかつたこと、自分としては出来る限り十分検討しました積りですがその間には錯誤もあり歸朝早々にて資料の整理も不十分にて、又話し洩しの点もあり定めし御聞き苦しかつた点が多かつたこと、思ひますが、前述の次第につき宜しく御諒察あらん事を希望致します。

(完)

Chinese Youth Blamed By Japanese for War

Responsibility for the undeclared war in China must rest solely with the youth groups of China, in the opinion of T. Nogami, president of a Tokio mining firm.

One of a party of 28 Japanese business men visiting Philadelphia as guests of the Philadelphia Chamber of Commerce, Nogami described the massacre of 200 Japanese civilians at Choochow, near Peiping, in July as the spark that set off the war.

"Japan is not militaristic, but desires peace," Nogami declared yesterday. "Chiang Kai-shek did not want war, but was forced into it by the young groups in China." Admitting that Japan did not expect a long war, Nogami said he believed it would be a "fight to the finish."

一九三七年九月二十一日附
フィラデルフィヤインクワイヤラー紙掲載

戦争ニ關シ支那ノ青年

日本人ヨリ非難サル

東京市ニ本社ヲ有スル野上鑛業株式會社々長野上辰之助氏ノ意見ニヨレバ、今次ノ宣戰布告ナキ戰爭ノ勃發ノ責ハ全ク支那ノ青年團體ニ在リ。フィラデルフィヤ商工會議所招待トシテ同地ヲ訪問セシ二十八名ヨリナル日本實業家視察團員ノ一人ナル野上氏ハ今次日支事變擴大ノ因トナリシ北交ノ近郊、通州ニ於テ今年七月惹起セル二百名ニ上ル日本人民虐殺ノ實情ヲ詳述セリ。野上氏ハ陳述シテ曰ク「日本ハ好戰國ニ非ラズ、ソノ望ム所ハ平和ナリ。蔣介石モ戰爭ハ望マザリシニ不拘、支那青年層ノ強制ニ余儀ナク交戰ノ止ムナキニ至リシモノナリ」ト尙同氏ハ「今次ノ戰鬪ニヨツテ日本ハ總テテ解決スルデアラウ」ト語レリ。

本會記事

國民精神運動戰線へ

贈る生きた教典

筑豊鑛業界の重鎮

故金丸勘吉氏の奮闘史

圓滿なる徳望の光をとこしえに投影して去る十六日早曉黄泉の旅路についた筑豊鑛業界の重鎮金丸勘吉氏の人生記録こそ實に不撓不屈の奮闘史そのものである、氏の訃報一度傳へられるや巨木眠る遠賀郡香月町の自邸には業界、政界、財界、知名士の弔問客ひきもきらず悲しみの雑踏を呈し幾多無名の士も氏生前の知遇に今更の如く其の高徳を讃仰し香煙縷々たる中に感慨久しく深きうれひにとざされてゐる。

氏の一生涯こそは其のまゝ、戦時體制下に於ける國民精神

作興運動戰線へ贈る生きた教典であり軍需工業擴充の基本をなす石炭鑛業界殊に石炭鑛業互助會の組織發展上に印した足跡は實に偉大なものあり時局緊迫の秋其の業績は一段の光彩を放つてゐる。こゝに氏の徳望を偲ぶと共に立志傳誌の一頁を繕く事にしやう。

×

×

氏は明治十五年縁も深き門松に明け行く新春を壽ぐ一月一日岩蘇の香薰々たる中に田川郡弓削田村後藤寺の郷金丸壯三郎氏の長男として呱呱の聲をあげた、當時家計は餘り豊かでなく従つて少年時代より早くも父に従ひ業に就き、ありとあらゆる世の辛酸を泌々と舐めたが幼にして豪腹果斷な資性はよく萬難を克服し去りこの苦境時代に培はれた膽斗の如き不撓不屈の精神力こそ後世筑豊鑛業界の巨豪として信望を一身に集め得た基因であり巨萬の富を積んで尙

逆境時代への回顧を常に心の備忘録に堅く記して居たと
ころに人間金丸の香りゆかしき人となりを見る。

氏が家運挽回の大志に燃え郷家を出で鞍手郡木屋ノ瀬に
到り佐藤慶太郎氏經營觀音坑の下請負として鑛業界に第一
歩を印した時は氏がまだ二十五、六歳の青時代であつたが
幼時より附纏つて來た苦難の十字架は餘りにも重く寄せて
は返す波頭の如く足下を洗ひ、文字通り全くの裸一貫であ
つたが鶴嘴一本に託する青年金丸の烈々たる意力は掘り出
す礦石の如く堅く地下に埋もれ脈々と續く炭層の如く盡き
る處を知らず前途漸く豁々として一道の光明を見出すに至



其の間坑長岸田
半五郎氏の知遇
を得たことも亦
氏の人徳の至ら
しむるところ、
かくして驥幹堂

才機縦横の氏は筑豊の重鎮中島家の創業に際しては義
弟末吉慎一氏元代議士高野喜六氏と共に三人衆の稱を受
け幾多の功績を樹て其の後業界政界の大立物若松の吉田
磯吉翁に見出され翁經營の遠賀郡岡垣村海老津炭鑛に入
りやがて同鑛全部を譲りうけ海老津炭鑛株式會社を創立
し業績大いに擧り相踵で嘉穂郡桂川村平山炭鑛大隈炭坑
及び鞍手郡木屋ノ瀬緑炭坑等大小炭鑛の經營に當り信望
益々加はり勞資の協調も圓滿に各事業の礎石愈々堅く昭
和九年も意義深き誕生の日の一月一日資本金百五十萬圓
の金丸鑛業株式會社を設立社長となり筑豊炭界の重鎮と
し播ぎなき地歩を確保するに至つた。

更に氏の偉大さは彼の巨軀風貌の示す如く豪放磊落な一
面常に細心の注意を拂つてひたすら斬新な思想學識を求め
て研鑽怠らずよく青年徒輩の論に耳を傾け建策を容るゝに
あり、こゝに衆望流れに従ふ水の如く自から集まり、いか
なる場合にも自から人生航路の正確なる羅針盤を準備して
指針を誤る事なく表面に現はるゝ華々しさはなかつたが如

何なる問題に處しても強き信念と體驗とにより生れ出づる
高邁なる識見を藏し、斯界稀に見る逸材であつた。

大正八、九年より同十二、三年に亘る財界の大恐慌に際
會しても一入打撃甚大な業界にあつて寸毫の搖ぎも見せ
ず昭和五年歐洲大戰の反動をうけて炭界は未曾有の不況
時代を招來するや野上辰之助、藤井伊藏氏等と協力業界
の推進力となつて筑豊五十有餘の炭鑛業者を打つて一丸
となし事業統制上より石炭鑛業互助會を組織、販賣統制
上より互助會石炭株式會社を結成、事務所を若松市に設
立推されて社長ととり業界不況打開の根本策を確立折か
ら業者の死活問題と迄云はれ重大視されてゐた撫順炭輸
入制限石炭販賣統制等の諸問題も圓滿に處理し、今日業
界に毅然たる筑豊炭都の基礎を築き日本石炭鑛業發展史
上不磨の頁績を止めてゐる。

更に昭和八年並に同十一年賃銀値上に端を發し若松港に運
炭船争議勃發するや石炭輸送の危機に直面して動ぜず、互
助會幹部と共に調停に乗り出し一夜にして之が圓滿解決を
圖つた等氏を語るにふさわしい思ひ出であらう。

氏は亦政界に於ても陰の人として民政黨陣營に重きをな
してゐた、氏が政黨に關係をもつに至つた動機に就ては昔
闘時代に活路を拓いてくれた吉田磯吉翁の靈に禮拜する氣
持の現はれたと言はれてゐるが宜なるかな……こゝに亦
金丸氏の人格の一断面を見る、氏は縣議に衆議院議員と同
黨の上から幾度となく出馬を勸奨された、出馬すれば必ず
當選の實狀にありながら其都度堅く辭して受けなかつた氏
は自身より先づ一人でも多く同僚後輩を世に出したいと言
ふのか念願であつた、だから陰の援助に物心兩方面共積極
的で氏の援助により世に出た人も少くない筈だ。氏は人に
接するに物柔かく頭の低い人として氏を知るあらゆる階級
の人々から親しまれ敬慕されてゐた、一例を擧ぐれば所用
あつて自家用車で赴く途中同方面に行く知人を認むれば必
ず同乗をすゝめてゐたといはれる、今や氏此の世になく、

五十六年間の奮闘史もしめやかな讀經の中に一應の結末は
告げたが氏の輝ける足跡は後輩に與へる立志傳誌として永
劫に現世にとゞめられるであらう。(寫眞は故金丸勘吉氏)

労働力不足緩和に

半島人労働者

金丸高江炭坑に来る

時局を反映して産業各部門の労働力不足緩和に關しては各方面で之が對策考究中であるが、石炭鑛業互助會では半島人労働者を充足すべく商工省、内務省等監督官廳に請願中であつたが、東京を初め京都、大阪の各地とも、地下鐵工事其他で餘剰少く、差し當り東京市職業紹介所の斡旋にて、半島人労働者十八家族八十餘名がトツプを切つて筑豊炭坑に移入されることになり、十二月八日風戸互助會主事、平島高江炭坑々長に引率されて元氣よく乗込んだ。

是等半島人労働者は鞍手郡木屋瀬町金丸鑛業株式會社高江炭坑に收容して數日休養の後一齊に筑豊炭田の産業戰士として愉快に働きつゝあるが、一行中には内地人と結婚して愛の結晶をもうけて居る者も數名あり、内鮮融和を如實に示しつゝあり全部江戸ツ子辯で、却つて炭坑の人達が頼負けする位なれば親達は早速先輩の坑夫達と馴染み子供等も就學兒童は直ちに轉學の手續きをなし毎日通學し幼子は早くも手をつないで喜々として朗かに遊んで居る (寫眞は一行の記念撮影)



理事會

十一月廿四日午前十時より本社會議室に於て理事會開會
武内、山本、木曾、有吉、小林、西本各理事出席。

時局對策上京委員の経過報告あり、今後の對策に關する
變更事項其他を協議し正午散會した。

重役會並に理事會

十二月四日午前十一時より本社會議室に於て開會。武内
専務外五名出席左記議案に就いて協議し午後二時半閉會し
た。

議案

- 一、福岡鑛山監督局主催ノ鑛業報國運動實施ニ關スル件
- 一、炭坑労働者移動防止ニ關スル件 (労働統制)
- 一、現下ノ情勢ニ鑑ミ稼働者待遇ニ關スル件
- 一、時局ニ對シ労働力不足ニ關スル運動経過報告並ニ當面ノ對策協議決定ノ件

- 一、時下炭價問題ニ關シ上京ノ経過報告ノ件
- 一、野上副社長歡迎會日取決定ノ件
- 一、北松炭田並ニ其附近炭坑下調査ニ關シ職員派遣ノ件
- 一、其他重要事項

我等の礦山に

榮えあり

- 一 曉雲映えて東に
大日輪の相かな
彩霞の空にどよみ行く
大地を穿つ槌に音
- 二 勤勞の華繚亂と
香りてこの幾春秋
曠日の木の産業を
護りて強し十五萬
- 三 筑紫の野路に見はるかす
共榮和親の大綠旗
建業の念礙る所
我等の礦山に榮えあり

鑛業報國運動協議會概況

十二月三日於直方鑛山俱樂部

本會主催の鑛業報國運動協議會は十二月三日午前十時より直方市鑛山俱樂部に於て開催、福岡鑛山監督局より榎本鑛政課長出席、本會より武内、田籠、小林の三理事赤司、才津原、中島、吉賀、奥、織田の各社員、所屬炭坑の坑長庶務主任等五十餘名出席、會場には舉坑一致出炭報國、能率増進事故絶滅、協力一致銃後を守れ、勞資協調鑛業報國等のスローガンを掲げ、一同着席席方遙拜のため最敬禮をなし國歌君が代を奉唱して皇軍將兵の武運長久祈願のため一分間黙禱を捧げ愈々協議會に入る。

會長挨拶 (武内理事代理)

今回福岡鑛山監督局の主催に依り鑛業報國運動を行なはれますに當りまして是れが實施に關する協議會を開催致しました處監督局より榎本鑛政課長殿は時局柄公務御多用中

にもかゝらず態々御出張下さいまして親しく御訓示を戴きますことは吾々業者の誠に感謝に堪へざる處であります茲に謹みて御禮を申上ります。又炭坑所側の各位に於ても御多忙中多數の御出席を得ましたことは主催者の眞に喜びに堪へざる次第であります。

倍時局は愈々重大性を増し今や皇軍は全支那に兵を進め惡戰苦闘の中に着々戰果を收めて所期の目的を達成しつつあるのであります。が事變の終局は未だ豫斷を許さざる實狀にありまして眞に舉國一致以て此の難局打開に邁進すべき時であります。

殊に産業の源動力たる石炭業に従事して居ります吾々と致しましては國家的の重大使命を有することを坑主は勿論全從業者が自覺して眞に石炭鑛業報國の誠を致すことに努力しなければならぬのであります。

今回福岡監督局が此の實狀に鑑みられましたて卒先鑛業報國運動を起され本月五日より實施せられますことは誠に時宜に適するの企てとしての私共は此の最も意義ある運動の徹底を計り効果を收めることに全福の力を致さねばなりません。實施の方法其他に付きましたは榎本鑛政課長殿より詳細御訓示なり御指示がありますので是れをよく御聞きとりになり御手許に配布の印刷物等により萬遺憾なき様切に御願ひする次第であります。

私は此の機會に一言所見を申し上げ御参考にしたいと思ひます。今日吾々が一番困つて居るのは人的の不足即ち勞働力を今後如何にして充足するかと云ふ問題であります。此の問題は事業の根本的の重要問題でありますから互助會に於きましても吾々當局にある者は事變の勃發當初から或は保護坑夫の入坑許可或は深夜業の許可勞働時間の延長等法律的制限を停止すること或は鮮人勞働者若くは他の餘剩勞働者の移入斡旋又は軍需勞務要員充足規則の適用を受けること等に付陳情委員を選定して數回に亘り上京商工省を始め關係各省に向つて猛烈なる陳情運動を續けて來ました、こ

ゝに居られる鑛政課長も非常に御盡力下さいましたが遺憾ながら吾々の希望通りの實現を見ないのであります、而して是れに依り關係當局へ困難の狀況を深く認識せしめ得ましたので今後は色々の形にて緩和或は實現するものと信じます。更に極力運動を續けなければならぬのであります。が此際お役所のみ依頼しては居られぬのであります、お互に業者は如何にして此の大問題を解消するか工夫努力しなければならぬと思ひます、例へば此の鑛業報國運動を一時的の運動に終らず永續することに依りて即ち舉坑一致上下一体をなして大いに能率を増進すること或は頻發する災害を防止するとか精神を作興して報國精神を涵養するとか又は無駄を排除する等は總て此の運動に含まれて居るのであります。是れを常に活用することに努むることは最も適切な方法であると信じます、其他特に必要なることとして移動性の甚だしい坑夫の移動を防止する事も肝要であります。

要するに目下政府は石炭五ヶ年増産計畫を立案して着々是れが遂行に力を入れて居りますが若し今後超非常時とで

も云ふべき時局が来たならば即ち英國と或はソ聯との正面衝突が起ることを今から覺悟して居らねばなりません。返へすくも私共は銃後の國民として極めて重要な役割を有することを痛感致しまして此の鑛業報國運動を通じて時局克服に邁進を期したのであります、切に皆さんの御協力を願ひまして御挨拶と致します。

監督局長並に鑛政課長訓示

五助會長の挨拶が終つて、福岡鑛山監督局長堀茂臣氏の訓示は榎本鑛政課長朗讀演説し次いで鑛政課長は四十分間に亘つて、時局問題を中心として石炭鑛業が幾何に重要な役割を課せられて居るか事變が長引くだけ産業の原動力たる石炭の重要性は益々増加するものなれば勞資協調舉坑一致炭業報國に邁進すべきである旨を述べられた。(監督局長鑛政課長の論旨の概要は大休本誌冒頭に掲載と同趣旨) 榎本鑛政課長の挨拶が終つて、武内理事より答禮の挨拶あり愈々協議會に入る。

先づ高松二坑の北村氏より同坑に於ける鑛業報告運動の

諸準備其他に就いて報告あり、漆生炭坑、木城炭坑、海老津炭坑の田中氏等よりそれく各坑に於ける準備運動の概要に就いて説明あり、満場一致左の如き決議文を可決す。

決議

吾人ハ時局重大ノ折柄益々炭業報國精神ヲ昂揚シ勤勞精神ノ作興生産管理ノ改善並ニ作業技術ノ向上ヲ圖リ併セテ健全ナル勞働力ノ維持培養ヲ策シ以テ時難克服ニ邁進セムコトヲ期ス
斯くて榎本鑛政課長の發聲にて 天皇陛下萬歳を三唱して盛會裡に正午散會した。



鑛業報國運動第一回強調週間概況

十二月十三日ヨリ十九日マデ

(T S 生)

福岡鑛山監督局管内の鑛業報國運動は十二月五日から一齊に實施されて居るが、本會ではこれがトップを切つて十二月十三日より十九日までを第一回強調週間として第一日の十三日は本會より才津原、中島、井本、安西、吉賀、後藤、須藤の七社員を高松二坑、海老津、金丸高谷、大隈、岩崎、新目尾、西川、上山、木城、猪ノ鼻、漆生、上山田昭嘉、相田、糸飛、眞岡、豊州、新田川、新平和、木原川崎、田中新庄、位登の二十二坑に特派して激勵し實施狀況を視察調査したが其の概況は左の如くである。

實施事項

一、坑外

(イ) 舉行一致出炭報國、能率増進事故絶滅、勞資協調統

二、坑内

- (イ) ネオンサインで鑛業報國、安全第一、災害防止、出る。
- (ニ) 後の守り等のスローガン布帛下又はアーチを造りボスターを掲げ立看板等を立並べ宣傳に努めつゝある
- (ロ) 繰込前山神社参拜又は東方遙拜、國歌奉唱等をなし繰込場に於て本運動の趣旨目的につき訓話激勵をなし大いに強調しつゝある。
- (ハ) 従業員大會を開會して所長坑長其他役員より交々本運動の趣旨目的を強調しつゝある。
- (ニ) 去る十二月三日直方鑛山俱樂部に於ける協議會の決議文を事務所前又は掲示板に掲出して居る炭坑もある。

(イ) ネオンサインで鑛業報國、安全第一、災害防止、出

(ロ) 炭報國等の標語をあらはした設備のところがあつた。
各切羽毎に係員をして作業指導に努力しつゝある。

三、其他

(イ) 強調週間中入坑者には毎日一率に五十錢宛出勤獎勵金を給與して居るところがある。

(ロ) 従業員大會を開催宣言決議をなし各班に別ち各班を協坂部隊片岡部隊等の部隊名をつけ部隊長以下出炭の増加、災害の防止其他の實績により之を審査し優勝旗の争奪をなさしめる等の方法により本運動の主旨に則り目的貫徹を期して居る。

(ハ) 強調週間を前後一日延し九日間とし次の如く實施勵行日を定めて居る炭坑もある。

- 第一日 十二日 敬神デー
- 第二日 十三日 整理整頓デー
- 第三日 十四日 満函硬無デー
- 第四日 十五日 機械器具愛護デー
- 第五日 十六日 災害絶無デー

- 第六日 十七日 事故皆無デー
- 第七日 十八日 出勤獎勵デー
- 第八日 十九日 満函硬無デー
- 第九日 二十日 能率増進デー

大體に於て以上の如くであるが尙ほ強調週間第一日に所属各炭坑に配布した互助會長の挨拶は左の如くである。

互助會長挨拶

今回福岡鑛山監督局に於ては時局の重大性に鑑み同局管内一齋に鑛業報國運動を起されまして既に去る五日よりはれが實行に這入つて居りますので諸君は舉坑一致の運動に協力せられ着々其の効果を收めつつあること、信じます
一体何が故に斯くの如き運動が起されるか其の目的が何處に在るかは今茲に申上る迄も無く或は配布の新聞、ポスター類により又は炭坑よりの達しにより十分御承知の事と思ひますから私は此の機會に本運動に對する所感と希望を簡単に申上げ此の上共に諸君の御勵行を御願ひしたいのであります

先づ此の運動は國民精神總動員と併行して起されたのであつて決して一時的のものではありませぬ少くとも支那事變の續く限り長期に亘りて行はるゝことを覺悟しなければなりません、而して其の間に強調週間と云ふものがありませぬ吾が互助會は他に卒先して其の第一回を本月十三日より十九日迄一週間と定めまして、恰度今其の強調週間であります是れを平たく申上れば報國運動により事變に出征して居る人の分迄働く、即ち二人前分働くこと云ふ氣持になることでもあります

更に強調週間には夫れ以上働くこと云ふことになり、要するに全坑一体となり先づ健康にして各々仕事に何等事故を出さず又災害を未然に防ぎ大いに能率を擧げよう云ふのが此の運動の骨子であります

凡そ勞働力の必要にして神聖なるは云ふ迄もなく今次時局は益々其の貴重なることを痛切に感じられるのであります殊に我皇軍が陸に海に又空に支那全面に涉りて兵馬を進め生命を君國の爲捧げて奮闘して居られる忠勇無比の將兵に想ひを致す時吾々統後に在る者が各々の業務を堅く守り

自分の任務は大切なる國家の仕事であると云ふ自覺の下に統後の全國民が精進すべき秋であり是れがお互に國に報する義務であると思ひます
畏くも 明治大帝の御製に

國を思ふ道に二つはなかりけり
戰の庭に立つも立たぬも

國家の爲盡すと云ふことは戰場に命を捧げて働くことも統後に在りて各々稼業に勵むことも國を思ふ道は一筋であると仰せられて居ります誠に有難き御製であります
私共は此の御製を拜して報國運動の大精神としなければなりません、今や皇軍は凡有艱難を凌ぎ悪戰苦闘の中に連戦連勝遂に敵の本城として千古の歴史を飾り支那の首都として又抗日の策源地として過去十年間に巨費投じて抗日防禦陣を築きたる難功不落の南京城も落し入れ城頭高く日章旗を揚げました是れ眞に輝かしき日章旗であり國民感激の日章旗であります

私共は今更の如く皇國に生を得た幸福と誇りとを痛感し皇恩の有難きに感泣せずには居られぬのであります

情事變は是れを以て終局するのではありませぬ支那の背後に動く魔の國露西亞あり、英國ありて戦争は是れからと覺悟してかゝらなければならませぬ、勝て兜の緒を締め、是れに備へ銃後の我々は更に禪を締め上げて働かねばならませぬ

而も諸君の汗と油により採掘されたる石炭が國家社會に如何に貴重なるものであるかは云ふ迄もありません、國力を増進する産業も交通運輸も將又現代化學の偉大なる發達も總ては石炭を利用して發達して居ります實に「今日の文化は石炭から」と云はるゝのも決して過言ではない、況んや戦時に於ては一國の興亡に關するとも云ふべき重要な役割をなすのであります是れを思ふ時石炭鑛業に従事する吾人は此の國家的使命を果すべき一員であることを自覺して此の報國運動に参加し是を實行しなければならませぬ

諸君はどうぞ返へすがへすも此の運動をして意義あらしめられむことに一段の御努力を切望して私の御挨拶と致します

石炭鑛業互助會會長 金丸勘吉

參考

十一月卸小賣物價並に生計費指數

卸賣物價指數微騰

前月より五厘方

日本銀行調査 十一月の東京卸賣物價指數は二三七・六と前月に比し五厘方の反騰を示した、商品類別に就て觀るに食用農産物、金屬類、建築材料、工業藥材等強調を呈したが一方纖維關係品は海外景氣の沈衰に低落、燃料亦騰勢鈍化した爲め總平均指數は前記の如き微騰に止まつた、調査品百十品中騰貴四十六品、低落三十四品保合卅品にして主要品目及び商品類別の騰落割合は左の通り (%)

品目	前月比較	前年同月比較
内地米	(+) 一・二	(+) 三・三

内地小麦	(+)	一・八
分蜜糖	(-)	〇・九
生糸	(-)	六・四
米	(-)	二・一
羊毛	(+)	二・三
綿糸	(-)	一・三
人造絹糸	(-)	七・四
羽二重(輸出向)	(-)	四・一
金	(-)	二・七
外國材	(+)	四・〇
銅	(+)	〇
銅	(+)	三・八
内地小麦	(+)	四・〇
分蜜糖	(-)	一・四
生糸	(-)	一七・〇
米	(-)	三・四
羊毛	(+)	一九・三
綿糸	(+)	〇・九
人造絹糸	(-)	五・七
羽二重(輸出向)	(-)	一五・七
金	(+)	〇・九
外國材	(+)	六・五
銅	(+)	三・三
銅	(+)	四・四

漢詩、和歌、俳句
川柳、原稿募集

- 漢詩 (題隨意)
 - 和歌 (新春雜詠)
 - 俳句 (新春雜詠)
 - 川柳 (題隨意)
- 締切 一月五日

全部五首、五句以内

互助會報編輯部

石炭	硫磺	生ゴム
(+)	(+)	(+)
0.7	0.9	2.8
(+)	(+)	(+)
3.5	3.6	4.3

對前月騰落品目

農産物	食用	其他
(+)	(+)	(-)
13.0	14.0	0.3

好料及嗜好品	織維原料品	布帛類
(+)	(-)	(-)
5.2	7.7	1.9

鶏卵、鯉節、油、蜜糖、種子油、豚肉	生糸、綿糸、毛糸、人造絹糸、米、棉、印	羽二重(内地)、向(輸出)、緬(内地)、緬(輸出)、出(内地)、出(輸出)、銘仙、富土、粗布、莫大、笠、絹、縮、絹、縮、毛、斯
-------------------	---------------------	---

騰貴	低落
(+)	(-)
2.8	1.8

建築材料	金屬類	燃料	肥料	工業材料	其他	總平均
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1.9	4.4	0.8	1.7	1.3	0.9	0.5
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
14.5	14.8	15.6	17.6	15.0	15.3	16.8



十三都市小賣物價指數

前月より二厘方騰貴

商工省發表「十三都市小賣物價概況(十一月分)左の通り

△全國平均

十一月十六日現在の東京以下十三都市小賣物價指數(昭和四年十二月十六日現在の價格標準)は總平均一〇五・八であつて前月に較べると二厘、又前年同期に比べると一割二分九厘の何れも騰貴であるものは品薄に因る干瓢を始め廿七品で低落したものは出廻り増加に因る大根外廿八品である十一月における五大分類別指數騰落割合

建築材料	雜品	燃料
十一月	十一月	十一月
2.6	1.3	1.9
(+)	(+)	(+)
3.1	1.2	1.8

十一月における重要商品別指數騰落割合

衣料品及身廻品	食料品	總平均
10.8	2.7	5.8
(+)	(+)	(+)
3.3	4.4	13.9

仙	東	高	神	京	名	新	横	福	大	小	總
台	京	知	戸	都	屋	湊	濱	岡	阪	樽	平均
101.7	101.5	101.5	101.4	101.9	101.9	101.3	101.2	101.1	101.6	101.9	101.8
△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△
0.7	0.3	0.8	0.2	0.3	0.7	0	0.5	0.9	0.3	0.4	0.3
101.7	101.8	100.0	101.5	101.0	101.9	101.0	101.1	101.3	101.6	101.3	101.9

一、概況

東京市生計費指数

本年七月を二〇〇とする東京市の十二月分労働者生計費指数は二〇二・二で前月に比し二厘の微騰である、之を五大費別に見れば飲食料費を除く四大費は何れも昂騰し、光熱費は五分七厘、被服費は六厘、住居費は二厘、保健衛生費、修養娯樂費等を含むその他の諸費もまた二厘の昂騰であるが、獨り飲食料費は五厘の低落を示してゐる、給料生活者生計費指数は一〇二・〇で前月に比し労働者生計費指数と同様三厘の微騰を示してゐる、之を五大費別に見れば、光熱費は五分二厘、被服費は七厘、住居費及びその他の諸費は共に一厘の昂騰を示してゐるが、飲食料費は四厘の低落である

本年七月を一〇〇とする大阪市の十一月分労働者生計費指数は二〇〇・九で前月に比し一分の低落である、之を五大費別に見れば飲食料費を除く四大費何れも昂騰を示し、光熱費は一厘二厘、被服費は四厘、住居費は一厘、保健衛生費、修養娯樂費等を含むその他の諸費も亦一厘の昂騰であるが、獨り

十一月生計費指数

東京は微騰、大阪は微落

内閣統計局の調査によれば十一月分の東京市及び大阪市の生計費指数は左の如くである

米國物價指數日報

ブラッドストリート社調査

十一月廿四日	二六・八
前日	二六・八
前週	二九・三
前月(廿三日)	二四・六
前年同日	三三・八

△備考 本指数は一九三二—三年の總平均を一〇〇としたものである

飲食料費は二分五厘の低落を示してゐる、給料生活者生計費指数は一〇〇・八で前月に比し労働者生計費指数と同様一分の低落である、之を五大費別に見れば、光熱費は一分一厘、被服費は四厘、住居費及びその他の諸費は一厘の昂騰を示すに對し飲食料費は二分六厘の低落を示してゐる

二、兩市生計費指數

生活費指數	東京市	大阪市
	労働者	労働者
内譯	給料生活者	給料生活者
	活者	活者
飲食料費	101.5	101.5
住居費	100.3	100.3
光熱費	111.9	105.5
被服費	101.0	100.8
其の他の諸費	101.2	100.1
前月に比し騰落	0.2%	△1.0%

△印は低落

大言壯語

政治家 後藤新平 (日本)

眞に大事に目を注いで、心中歴々たる成算があるとすれば、之を口にしても大言壯語として排斥すべきでない。行つつもりで行れる事を言ふのなら、大言でも壯語でも一向かまはぬ。いくら眞面目臭い事でも、尤もらしい小さい事でも、行へぬ事、行ひ得ぬ事を言ふのは、取りも直さず大言壯語であつて、吾輩の最も好まぬ所だ。

石炭船運賃

一、汽船運賃

イ、遠洋 歐洲方面は世界農産物を始め軍需原料品の出廻り減退から船腹過剩顯著となり、市況の漸落を誘致して今後更に如何なる足取りを示すかは尠なからず重視されてゐるが、その反面各國共益々優秀船の建造に熱中しこれが相次ぎ市場に割込みつゝあるのみならず、繋船の出動が今に於て漸く市況に悪影響を示すに至つたことは見逃せない爲めに邦船として出稼出動配船の如きは全然興味なき模様であるが、普通遠洋方面にも蒐荷なき爲め漸く鐵礦石、其他の必需品の輸入に期待をかけてゐる程度に過ぎない。

ロ、近海 十二月上旬一區就航船は新造船の竣工、南洋方面よりの船腹歸航で一、〇〇〇、〇〇〇噸臺に復活したが一方年末荷動きも石炭を中心に相當活氣ある場面を呈せんとしてゐるので市況は強調裡に保合つてゐる。

ハ、石炭 年末積の引合は相當幅狭してゐるが、期近船

腹の拂底で商談進捗せず、殊に船主は滞船の懸念ある方面へは配船を避けんとしてゐるので、結局小樽、若松積の如きは却つて商談の不進捗を免れない状態となつてゐる。従つて運賃市況は相變らず手堅いが別に上昇する氣配もなく若松/京濱五圓二、三〇錢、小樽/京濱六圓三、四〇錢、室蘭/京濱五圓一、二〇錢見當を標準とされてゐる。

最近の成約運賃は若松より

仕向地	今月中旬	前月
京濱	五・二、三〇	五・二〇
川崎	五・五〇	五・五〇
伊勢灣	四・八、九〇	四・八〇
大阪川入	二・五〇	二・四、五〇
敦賀	三・三〇	三・三、四〇
仁川	三・二〇	三・二〇

(十二月十五日迄の海運特報に據る)

二、帆船運賃

年末關係で出炭は各地共相當幅狭して出廻りの激増、天

候の關係による滞船の増加等に依つて船腹は著しく不足を來し阪神十六錢値上に決定次の通りである。

十二月若松港協定運賃表

若松海運互親會

(單位壹圓ニ付)

仕向地	運賃 前年同期	仕向地	運賃 前年同期
和歌山縣		和歌山	三、九
由良	三、〇一	和歌山	三、九
大阪府		吉見	三、〇六
樽井	三、三〇	吉見	三、〇六
佐野	三、〇七	岸和田	三、九
堺	三、六	大阪	三、三
兵庫縣		西ノ宮	三、三
尼崎	三、三	西ノ宮	三、三
神戸	三、三	洲本	三、六
明石	三、〇六	江井ヶ島	三、〇六
二見	三、〇六	別府	三、〇六
岡山縣		岡山	三、九
片上	三、九	牛窓	三、三
鹿忍	三、三	岡山	三、三
岡山川入	三、三	宮ノ浦	三、三
幸西	三、四	小串	三、三
彦崎	三、三	宇野	三、三
玉	三、三	日比	三、三
田ノ口	三、三	味野	三、三
玉島	三、三	笠岡	三、三
廣島縣		福山	三、三
福山	三、三	福山川入	三、三
福山	三、三	因ノ島	三、三
尾ノ道	三、〇六	糸崎	三、〇六
三原	三、〇六	竹原	三、〇六
阿賀	三、〇六	吳	三、〇六

廣島(川入)	二、〇〇	一、七〇	宇	品	一、九二	一、五
山口 縣			今津川入	一、七	一、三	
岩 國	一、八二	一、七				
三田尻	一、六	一、六				
德 島 縣			小松島	二、七	二、二	
德 島	二、三	二、九				
撫 養	二、六	二、七				
香 川 縣			高 松	二、七	一、八	
小豆島	二、四	一、九				
林 田	二、七	一、八	坂 出	二、七	一、八	
丸 龜	二、七	一、八	多度津	二、四	一、三	
觀音寺	二、七	一、八				
愛 媛 縣			西 條	二、七	一、八	
川ノ江	二、三	一、八	壬生川	二、三	一、八	
新居濱	二、三	一、七	菊 間	二、七	一、六	
今 治	一、七	一、六	高 濱	一、七	一、六	
堀 江	二、七	一、六	長 濱	一、七	一、五	
三津濱	二、三	一、五	八幡濱	二、七	一、八	
宇和島	二、七	一、八				

備考 一 各地行共二五〇風以上ハ上記運賃ヨリ應貳錢引キノ事
 二 各地行共陸下ケ瀬取ハ上記運賃ヨリ應參錢引キノ事
 三 大阪行ニシテ荷揚ケノ際篩分ケスルモノハ上記運賃ヨリ應參錢増シノ事

七箇條の

感冒撃退策

米國の醫師が發表

アメリカの或るお醫者さんが感冒撃退策第七箇條を發表しました。

- 一、人ごみに入るな
- 二、新鮮な空気を呼吸せよ
- 三、運動を充分にせよ
- 四、睡眠を充分にとれ
- 五、過食するな
- 六、食事中に水を飲め
- 七、手を洗へ

尙この原則の外に、感冒の傳染する原因として同じ容器に家族の人の歯刷牙を一緒に入れてある場合を挙げ、又キツスしたり、爪や鉛筆を嚙んだりすることも危険だと述べてゐます。



用日モダン熟語註解

(六)

スタハノフ運動 スタハノフ運動とは一九三五年夏、露國に初めて起つた能率増進運動のことである。

スタハノフといふのはドンバス炭坑に働く一労働班長の名である。このスタハノフ氏がふとした機會から從來の採炭労働を合理化したので日一日と能率が上り遂に從來の十數倍に達する採炭レコードを立てるに至つた。

そこで露國政府はこれを機會にスタハノフ運動といふ標語を押立て、全國的に全産業部門ひいては全國全機關に懸命に働け、能率を上げよといふ叫びをあげ大いに効果を發揮するに至つた、これが即ちスタハノフ運動で、自來政府は成績顯著な個人、團體を表彰し甚だしきはレーニン勳章まで授與するに至つたので一般民衆でもスタハノフにあらざるものは人にあらずとまで考へる向きも出るといふ状態で、こゝに露國能率増進時代を生じたのである。

バーターステム 交換貿易制のことで、昔未開人間に行はれて居た物々交換制から來た言葉である。

これは世界恐慌後片貿易の極端なのに苦しんで居た國が輸出と輸入とを均衡せしめんとする主張から生じたものである。此の方法によると相手國との取引に現金を用ふる必要が少くなる爲め赤字國には極めて好都合なこととなる。又例へ相手國が輸出爲替の支拂を拒絶するやうな事があつても、相手に對する輸入爲替で相殺されるので輸入超過國にとつては極めて都合がよいことになる。

貿易管理 貿易と云ふのは斷るまでもなく他國との取引を云ふのであつて、わが國では徳川時代まで無かつたと言つて良い。が今日は、身につけてゐる衣類からコーヒー蓄音機まで他國品ならざるは無い、と同時に、外國人も亦綿布、人絹、玩具等所謂「メイド・イン・ジャパン」の愛好者である。相手の欲しいものは賣ると共に、吾々が國內で得られるものをどん／＼買入れて生活を豊富にするのが一番よいのである。が然し、此の場合收支償つてゐねばならぬこと、サラリーマン生活と同様の理である。ところが最

近の日本は買ひ物の違多くて輸出に依る様高がこれに到底伴はなくなつた。原因は云ふまでもなく、戦争準備に必要な軍需資材を莫大に買込むからだ。此の傾向は改まらぬのみか、もつと強くなりそうである。これを何う解決するか、簡単に言へば、特に必要でないものは一切買はぬことだ。當局が全体から見て各商品の『必要程度』を判断し、此の標準で買込む數量價格を決めて了ふ。即ち、輸入管理である。貿易管理と云へば、輸出奨励と云ふことも入るがこれは第二義的である。

物理探鑛法 鑛物資源開發のため、今度日本學術振興會の肝煎りと業界の後援に依り、諸學の權威を集め物理探鑛研究所と云ふのが明年四月から開設されることになつた。地下の金屬鑛、石炭石油等の鑛床は一般にそれを埋藏する諸岩石に比し誘電性、磁性、彈性、比重等の物理性を異にするのが普通である。従つて地下に電流を通じて磁力を測定する等の方法に依り諸鑛床の存否、大小、形狀等を探知し、また從來不確實な方法に依り推定されてゐた鑛床を正確に再測定する事も可能となる譯である。これ等の方法

を總稱して地球物理學的探鑛法と謂はれてゐる。

此方法は歐米では歐洲大戰前後次第に汎く利用され特に米、ソ聯等では石油の發見に大きな成功を収めてゐるが我國でも學振の提唱で昨年頃から着手され京大の藤田義象、松原厚兩博士等は電探鑛法で鑛床を、東大青山秀三郎博士は彈性法で油田を調査したが設備や經費の關係でうまく行かなかつた。その原因には又此方法の研究調査には物理、地震、電氣、地質、鑛物、鑛山等の廣汎な知識を要し多數専門學者の總動員を必要とする困難をも擧げられるのである。

最近震研の石本所長等は磁力法に依り滿洲國にて豊富な新鐵鑛脈の發見に成功したと傳へられてゐるが、それはとまれ今後の物理探鑛研究所の創設は今後これに使用される地震計その他の測定器の進歩と相俟つて鑛物資源の開發に輝かしい將來を約束したものと云つてよからう。

雜 錄

互助會石炭株式會社

分析試驗規定

- 一、互助會石炭株式會社關係石炭ノ品位測定ニ資スル爲本社ニ石炭分析所ヲ設ク
 - 二、石炭分析試驗方法ハ凡テ昭和十一年商工省告示日本標準規格第二三六號ニ準據ス
 - 三、當分ノ間分析所ニ於テ行フ試驗項目ハ左記ノ通りトス
 - イ、石炭工業分析
 - 水分、灰分、揮發分、固定炭素
 - ロ、石炭發熱量ノ測定
 - ハ、石炭原素分析
 - ニ、石炭發熱量ノ測定
 - ハ、石炭原素分析
 - 四、分析所ニ於テハ本社株主及社外ノ依頼ニ應ジ分析試驗ヲ行フ事アルベシ
- 五、石炭分析試驗ノ依頼ヲ爲サントスル者ハ所定用紙ニ炭名及依頼項目記入ノ上試料ト共ニ當社ニ提出スベシ
 - 六、石炭分析試驗依頼ノ爲提出スル試料ハ粉炭及小塊ハ五疋以上、塊炭及切込炭ハ十疋以上トス
 - 七、依頼分析試驗ニ對シテハ左記手数料ヲ徵收ス（括弧内ハ社外依頼者手数料トス）
 - イ、石炭工業分析
 - 水分、灰分、揮發分、固定炭素ハ一成分ニ付金九拾錢（壹圓拾錢）トシ一成分ヲ増ス毎ニ金六拾五錢（八拾錢）ヲ加フ
 - ロ、石炭發熱量測定
 - 發熱量ノミノ時ハ金壹圓參拾錢（壹圓六拾錢）トシ他成分ヲ伴フ時ハ金九拾錢（壹圓拾錢）トス
 - ハ、石炭原素分析
 - 硫黃金壹圓貳拾錢（壹圓五拾錢）トス
 - ニ、工業分析全部（除硫黃分）及發熱量測定ノ場合ハ金參圓貳拾錢（四圓）トス

以上

鑛業報國運動實施要綱

一、實施目的

本運動ノ目的ハ鑛業報國精神ヲ昂揚シ、勤勞精神ノ作興、生産管理ノ改善及作業技術ノ向上ヲ圖リ併セテ健全ナル勞働力ノ維持培養ヲ策シ以テ時艱克服ヲ期スルニ在リ

二、實施時期及期間

本運動ハ昭和十二年十二月五日ヨリ之ヲ實施シ相當長期ニ及ブモノトス

三、實施機關

福岡鑛山監督局之ヲ主催シ各地方ニ地方實行委員ヲ置ク地方實行委員ハ各地方ノ鑛業團體及各炭礦ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ充テ福岡鑛山監督局及各炭鑛間ノ連絡幹旋ヲ圖リ本運動實施ニ必要ナル實務ヲ掌ル

四、實施方法

(一) 實施地域ハ差當リ管内炭鑛地域全般ニ亘リ一齊ニ

之ヲ行フ

(二) 本運動ノ目的達成ヲ爲管内ヲ左ノ通り區分シ適當

ナル時期ヲ選ビ隨時強調週間ヲ實施ス

- 1 山口地方
- 2 福岡地方
- 3 長崎、熊本地方
- 4 佐賀地方

五、實施事項

本運動實施ニ當リテハ舉坑一致、出炭報國及事故絶減ノ三大「スローガン」ヲ掲ゲ其ノ趣旨ノ徹底ヲ期スル爲概ネ左ノ行事ヲ行フモノトス

一、本運動期間中實施スベキ事項

- 1 鑛山從業員大會
山神社參拜、東方遙拜、國歌合唱、事業主及鑛夫代表ノ演説(社長ノ訓示及鑛夫代表ノ答辭)宣言決議、萬歲三唱
- 2 ラヂオ放送、「パンフレット」ヲ配布「ポスター」ヲ掲示
- 3 就業前坑長訓示、東方遙拜ノ勵行

5 前記(一)ノ4記載ノ事項ニ付特ニ鑛夫及職員ノ注意ヲ喚起シ其ノ成績ヲ報告スルコト

石炭飢饉は迫る

統制裡に炭價昂騰

在京一記者

◇石炭鑛業聯合會の對策も効なく石炭供給不足の聲は各方面に高まり、炭價も亦急騰の勢ひを示し、九州一等塊炭二十二圓は前月に比し五十錢高、同粉炭は一圓五十錢高の二十圓となつてゐる、昨年比すれば塊炭は四割弱、粉炭は五割五分の暴騰である、石炭價格は配給會社に依つて嚴重に統勢されてゐる、隨つて之れまでの値上りは運費の昂騰に原因したものである、然し最近の炭價昂騰は單に運費の昂騰のみが原因でない、石炭運賃も騰つてはゐる、本月に入つてから若松横濱間の石炭運賃は趣五圓から五圓二十錢に引上げられた、石炭の値上げは、運賃以上になつてゐる。

二、強調週間中實施スベキ事項

- 1 福岡鑛山監督局職員(新聞社從軍記者)ノ時局講演、映畫ノ上映
- 2 週間中成績優秀ナル組ニ對シテハ表彰ノ方法ヲ講ズルコト(例ヘバ優勝旗ノ授與、特別賞與金ノ交付等)
- 3 週間中從業員ニ對シ何等カノ優遇方法ヲ講ズルコト
- 4 合宿所其他食事給與施設ヲ有スルモノニアリテハ營養食ノ補給ヲナスコト

- 4 全員一致シ左ノ事項ヲ勵行ス
イ、無駄ノ排除
ロ、事故ノ防止(機械器具ノ點檢、注意ノ喚起)
ハ、能率ノ増進(勞働速度ノ増加ト就業時間ノ短縮)
ニ、出勤獎勵
- 5 災害防止、作業合理化ニ關スル研究會乃至座談會ノ開催
- 6 勞務管理ノ整備ニ一層ノ努力ヲ拂フコト
- 7 移動ノ減少ヲ期スルコト
- 8 福利的施設ノ整備改善ニ努ムルコト

◇需要期に入つて石炭が昂騰するのは毎年の例である、本年も石炭の需要期に向つたのであるが、今年の昂騰ぶりは昨年と異つて塊炭よりも粉炭の騰勢が著しい、勿論需要の激増に因るものであるが、粉炭の最大需要家たる電力業者に及ぼす影響は相當なものである、電力會社は長期契約をしてゐるが、期限の到来したものは悉く値上げされてゐる、石炭會社は斯くして運賃以上の値上げをしてゐるが、手許採算は必ずしも向上してゐない、素より炭鑛にも依るのであるが、勞銀及び材料の昂騰、深掘に依る生産費の増高坑夫募集費の増加等で利潤は却つて低下しつゝあるものすらある。

◇石炭鑛業聯合會は、去る十月中に石炭の増産を奨励するため送炭規定を改正して、超過數量相當り一圓の賦課金徴收を廢し超過數量の次年度割當控除規定も之れを撤廢した、而して送炭實績本位に依る次年度割當基準決定等の積極的増産條項を設け更に進んで採炭事業に従事する勞働力の供給緩和につき内務、商工兩當局に要請したが坑夫の不足は益々甚だしく、下期百一十萬噸の増送など

てゐる。

(福岡日日)

石炭業法の制定に

商相愈々乗出す

來議會提出を計劃

商工省では石炭需要の急増に對應すべく昭和十六年度に於ける需要總量七千五百萬噸を目標とする石炭増産五ヶ年計畫を樹立し鋭意その實現に努力してゐるが吉野商相はこの際生産及び販賣機構の不合理な點を除去し根本的再編成を行ひ生産より消費に至るまでの合理的な一貫統制の必要ありとし鑛山局及び燃料局に命じてその具体案の作成を急がせてゐる、而して右統制を實施する場合には産金法の如く生産販賣に對する單行法の制定が必要であるとして間に合へば來る通常議會に提出すべき準備を進めてゐる、商相案の内容は生産機構の整備、生産配給並に消費の統制に關する廣範圍に亘るものである。

は實行困難なことである、石炭配給會社は、今夏既に石炭需要の激増を見越して貯炭の増加に努めた、その結果貯炭高は昨年よりも多いのであるが、如何にせん北海道方面は貨車の輸送力乏しく、九州は積込勞力不足し、折角出發しても港頭に滞積して市場に供給されないため、貯炭高の總計は多くても實際の需要を充たし得ない實情にある。

◇某電力會社の石炭係主任は斯う歎じてゐる『今までは石炭屋に拜まれたが、現在では石炭屋を拜まねばならぬ有様だ』と、之れは誇張でも何でもない、各方面とも需要最盛期に入つて石炭の昂騰と不足に頭を悩ましてゐる、尤も配給を統制し輸送方法に改善を加へれば、現在の出炭をもつてしても若干の供給を緩和し得る望みかないことはない、之れを實行するには石炭聯合會の提唱しつゝ、ある集團的鑛區における船積の共同作業、貯炭場の統一等その他の配給合理化などが考慮されるわけであるが、焦眉の急に迫つた石炭飢饉の應急策とはならない、炭價は斯くして嚴重な統制裡に尙昂騰を續けるものと見られ

商相案の内容

關係方面から相當異論

商相案は生産に關しては増産五ヶ年計畫遂行のためおよび今後戰時事變に際しての増産命令がまづ豫定され、採掘統制に關する命令もあはせ考慮してゐる、配給部門に關しては目下業界の實情が亂脈かつ無統制に失し石炭の輸送機關にしても石炭配給業者にしても専ら永年の商取引の傳統に災ひされてこれが整理統合が最も必要と認められてゐるので特に重點を置き配給統制については相當進んだ國家干渉を用意してゐる模様である、消費統制は石炭の品種を用途別に分類して規格を公定し指定された用途以外への消費を禁止すべきことを中心とするもので、これと配給統制とあはせて全國に合理化された配給プロックの組織を考慮してゐる、しかして内地生産の約八割は現在石炭聯合會の手で統制され筑豊互助會が一分五分、盟外社が残る五分を占めてゐるが生産統制、價格統制などについても強力なる統制を確立するためには強制カルテルの必要を認めてゐるが、

これは果して具体化するには如何なる法で律せらるゝかは頗る注目されてゐるが、各方面から相當異論あるものと目ざれてゐる、因に商相案の骨子は左の如くである。

一、生産機構の整理

現在、内地石炭の生産額のうち、石炭鑛業聯合會が凡そ八十二パーセント、互助會が十五パーセント、其他のアウトサイダーが凡そ五パーセントを占めてゐるが、増産計畫の圓滑なる遂行を圖るため石炭業者を全般的に包含する法的カルテルを組織せしめる。

二、生産の統制

右カクテルを通じて石炭の生産獎勵を行ふ外、場合によつては法律によつて強制採炭をも行はしめる。

三、配給の統制

現在三井系、三菱系その他各石炭業者の配給網が同一地方において並存し仕入れや配給價格の無駄が多いので、同一地方の石炭仲買商を整理して、各地方に新たな配

給機關を設立、共同購入、共同販賣を行はしめる。

四、消費の統制

消費の合理化を圖るため石炭の品位を用途別に分類して規格を公定する、即ち人造石油製造用の石炭、熔鑛爐用の石炭などを定め、その確定計畫以外の目的に使用することを禁止する。

以上の如く案の内容は畫期的のものであるが石炭業は昔から概して大財閥の支配下にあり、かつ何年もの習慣から商相の理想案實現については關係方面に相當異論があるものと見てゐる。

(合同燃料新聞)

されることとなつてゐるがこれと密接な關聯ある鑛山警察

の問題に關しては多年の懸案であるにも拘らず商工省對内務省間の折衝成らず一先づ現状のまゝ、商工省所管として殘されることに決定した、即ち内務省では昨年來相續ぐ鑛山慘禍は十六件の多數に及び是等鑛山監督行政が會社側の立場に有利で労働者の災害防止監督については行き届かぬ憾みがある結果であるとし河原田内相當時より商工省側に呼びかけ鑛業法並に同法に附屬する鑛山警察規則の一大改正を企圖すると共に、鑛山警察權の内務省移管を要望しその具體案作成を急ぎつゝあつたが、これに對し商工省側では各地方鑛山監督局の下に出張所を設けることとし従來の巡視制度の缺陷を常駐制を加味せる分駐制度を以て補ふ案を立て、明年度豫算に計上既に大藏省の承認を得たので、茲に鑛山警察權の内務省移管問題は一應解消の形となるに至つたものである。

(中外商業)

強制採炭には

補償制度を設けよ

小資本の新坑開發に許可制

『石炭業法』に當業者應酬

【東京】政府は石炭の需要激増に備へる爲石炭増産五ヶ年計畫を樹立する一方石炭鑛業聯合會を中心として生産、配給に關する自治的統制を行はしめて來たもの、最近の微溫的な自治的統制によることの不適當なるを認め來議會に生産、配給、消費の各部門に亘る廣範圍の統制命令を規定する石炭業法案を提出することに内定したが右に關し民間業者の意見を綜合するにすでに凡ゆる重要産業において國家的統制法が制定されてゐる今日獨り石炭業のみがこの埒外に放任されてゐる状態にあるので石炭業法の制定そのものは時節柄國家總動員計畫上より見て當然の事と考慮され敢て反對はない。

然しその内容として傳へられる生産の統制の如き法律に

よつて強制採炭を行はしむるとすれば業者としては増産設備を擴張するに際して一方不況時の対策も併せ決定せざるを得ず、従つてこれらの點に想到して宜しく強制採炭に伴ふ補償制度を設くべきである、又徒らに増産を急ぐ結果は群小石炭業者傑出を招く可能性ありこれら小資本による新坑の開作は設備その他の點より生産費の昂騰を來たし業界の統制的見地よりも面白くないので今後の小資本による新坑開發に關しては許可制を設くべきである。

との意見が強く従つてこれらを纏めた上近く商工當局に何等から形において民間側の意見を陳情することゝなる模様である。

(讀賣新聞)

北支開發の方針に就いて

北支に存在する尨大なる各種資源は今や日本による開發の手を待つてゐる。戦後の治安工作が略々見透しを得た今日早急に要請せらるゝものは我が國の大陸政策の據點たる

北支の經濟的振興であらう。そしてこれに就いての政府民間の關心は資本進出の方法、活動の形態を如何にすべきかの點にまで具體化し昂まり來つた。

北支になほ戦争が進められてゐた時既に我が國資本の意欲はその活動が自由であるべきことを強調してゐたが、今次傳へらるゝ所によれば、政府の方針はこの意欲を充分に考慮せるものゝ如くである。

即ち北支開發事業は

一、總て之を政府の許可制度とし事業資本の内容を検討し取捨選擇を行ひ得ること。

二、但し許可を與へた事業に對しては飽まで有利な條件を與へ行過ぎた統制や過重なる負擔を強ひざる様留意すること。

とし先づ鐵礦及び石炭の開發事業につき許可制の制定實施を行ふものと見られてゐる。

資本主義の盛時に於けるが如き無制限さは阻止されてゐ

るとは云へ、滿洲國の草創期にあつた如き資本活動の強力なる統制はこゝに見られないこの比較的自由的な資本活動が許容せられた事は、最近の滿洲國への日本産業株式會社を中心とする資本進出の事實と對應して興味ある問題を提供するものである。嘗て、頑強に内地侵入の資本を拒んだ滿洲國は、その王道樂土建設のスローガンに拘らず、經濟的開發が豫期の如く進展しないのに多くの悩みを持つた。軍部が抱くイデオロギーと冷厳なる資本の法則との間の矛盾が滿洲に於ける經濟的開發の行手を遮る最大の障害となつてゐた。

資本の意欲は本來自由を求める。利潤を追ふて無礙に振舞はんとするのがその本質的性格である。政治的乃至道徳的目標の如何に拘束されまいとするのみならず、或ひは却てかゝる目標を自己の活動に從屬せしめんとさへするのである。この意欲を阻害される時資本はその活動を容赦なく停滯する。こゝに滿洲國に於ける從來の苦惱の根據を見るべく、日産の進出がその解決策として採用されねばならな

かつた理由を知るのである。北支の經濟開發はこの經驗に基づき根本方策が打ち立てられんとしてゐる。資本は比較的自由的な活動舞臺を見出した今後の北支開發は可なり目覺ましいものがあるであらう。

然しながらそれと共に眞に重大なる一つの問題がこゝに附隨してゐるのを見落してはならない。それは資本と表裏的な關係にある労働の問題だ殊には北支にある土着民衆の生活問題である。内地資本の進出と共に内地の熟練労働力の移入がなされることは必然の事實であるが、土着労働力の使用が大量になされることも亦略々想像し得る所である。こゝに一應は國を別にする資本と労働が相見ゆることにならぬのだ。一國內、同一民族内部に於てすら資本と労働力とは常に必ずしも融和し得るものでないことは更めて證明を要しない事實であらう。況や一時的たりとも敵對し合つた兩民族が資本と労働として相見ゆる場合そこには深甚の考慮を要請する關係を作り出すことを忘れてはならない。

我が國が支那に兵を進めつゝあるのは決して單に經濟的
利益の追求のためのみではない。支那民衆を軍閥と外國資
本の抑壓の下より更生せしめんとするのは其の重大目的の
一つである。萬一にも我が國資本の進出と共にかつての時
代に於けるが如き勞資の對立相剋を生み出すが如き條件を
持ち込む様な事があるならば我が國の眞意の大半は泥土に
遺せらるゝことになるであらう。資本は自由を求めぬ。だ
がその自由は決して一切の關係に於ける『自由』であつて
はならないだらう。北支開發に就いては勞資間の調整の點
に於いては寧ろ強力にして適正なる統制が必要である。

(日本鑛業新聞)

鑛業報國運動

愈々西日本に展開

屢報の如く福岡鑛山監督局主催の鑛業報國運動は同局管内
石炭山を山口、福岡、長崎、熊本、佐賀の四地方に區分し
各地方實行委員を鑛山當業者より選出し緊密なる連絡提携
の下に準備中の所愈々本月五日各炭山一齊に運動の火蓋は

切られた此の日各炭坑に於ては夫々講堂、會館又は大テニ

ト張の會場に於て事業者も勞務者も打つて一丸となり嚴肅
なる従業員大會を舉行し銃後の産業人として熱烈なる演説
が行はれ又宣言、決議等が爲され鑛業報國の精神を昂揚し
た、以來、勞資各々の立場より其の目的の貫徹に力戰奮闘
が續けられ既に入坑率の向上、出炭額の増加を見るに至つ

た
尙五日福岡鑛山監督局に於ては局長代理として榎本鑛政課
長以下局員多數を各方面に派遣して訓辭、激勵をなし一方
局長は福岡放送局より約三十分を亘り『鑛業報國運動實施
に就いて』と題して講演をなし一般社會の理解を促すと共
に事業主及勞務者に其の趣旨の徹底に努めた

従業員大會狀況

前項の如く本月五日各炭鑛に於て鑛業報國運動従業員大
會を舉行したが其の中記者の見聞せしものを摘報すれば左
の如し

山口地方

一、山神社にて戰勝其他祈願祭

一、開會の辭

一、東方遙拜及國歌合唱

一、局長代理武田書記官の訓辭

一、麻生社長代理麻生五郎氏の告辭

一、麻生五郎氏の所感

一、所長所感

一、鑛長所感

一、勞務者代表所感

一、宣言決議

かくして午後十二時過ぎ閉會した尙炭鑛當事者の談によれ
ば、運動當日前後を通じ従業員の入坑率は從來の六〇%よ
り七〇%に向上し出炭率も相當の向上線をたどつてゐると

天草地方

同地方では五日午前十時より一町田旭炭鑛に於て同坑及天
草無炭坑の代表者多數參集左記の順により盛大なる従業員
大會を行つた

△開會の辭△國家合唱△堀局長代理宮原文雄氏訓辭代讀

同地方では五日宇部市公會堂に縣下全鑛の代表者一千五百
二十六名參集の下に、午後二時宇部鑛業組合主事小島成美
氏開會を宣し、先づ國歌合唱、東方遙拜の後、監督局長代
理椎野書記官局長の訓辭を代讀、引續き同氏の熱烈なる演
説あり以下左記の順により頗る盛大なる大會が行はれた
△地方實行委員國吉信義氏の挨拶△休憩△福岡日日新聞
上海特派員中原從軍記者の『世界戰史を飾る杭州灣敵前
上陸』講演△福日ニュース約五卷上映△閉會の辭小島成
美氏

同日各炭坑では各要所々々に鑛業報國運動のスローガンポ
スター、或ひは縦九尺横十二尺の大旗を掲揚し、従業員に
對してはピラ、パンフレット、リーフレット等約四十萬枚
を配布し、或炭坑の如きは旗行列により宇部公會堂に參集
する等頗る熱誠を極めた。

麻生吉隈炭鑛

同鑛に於ては吉隈會館に於て勞務者國防婦人會員、少年團
等多數參集文字通り事業者、勞務者、家族等一體となり午
前十時より左記の順により大會を舉行盛況を極めた

△同氏演説△濱一町田村長、一町田小學校長祝辭△萬歲
三唱△閉會の辭

尙魚貫炭坑に於ては午後二時半より左記の如く舉行

△開會△東方遙拜△山神社禮拜△國家合唱、國旗掲揚△
局長代理宮原氏訓辭代讀及び同氏演説△取締役訓辭△從
業員代表答辭△出征家族慰問金贈呈△來賓祝辭△坑歌合
唱△宣言、決議△閉會の辭

尙閉會後は參集者及出征家族に御神酒を分配した

早良炭礦

午前八時より同礦廣場に張りめぐらされた大テント内に職
員及勞務者千數百名參集、先づ東方遙拜、國歌奉唱の後
全祈願祭を行ひ、堀監督局長訓辭榎本礦政課長代讀、引續
き同氏の熱烈なる演説あり以下左記の順に頗る緊張裡に大
會を終了した

△事業主訓話△職員從業員代表者挨拶△親和會長告辭△
宣言、決議△從業員各團體代表者意見發表(十名)△福日
從軍記者磯田彌介氏の支那事變講演△萬歲三唱閉會

宣言

支那事變勃發以來皇軍將士は東洋平和の確立の爲北支に
中南支に生命を賭して奮戦せらるゝ眞に感激に堪へず我等
は現下時局の重大性を認識し一致團結國難に殉するの意氣
を以て其戰場を戰場と心得各自の鐵腕に全靈を打込み鐵業
報國の至誠を盡し以て銃後の護を固め後顧の憂なからしめ
んことを期す

決議

宣言の趣旨を貫徹するため左記事項を決議す

- 一、各自の職分に精勵し自由缺勤を絶対に廢止致しませう
- 二、作業の保安に留意し災害の撲滅を圖りませう。
- 三、生活の改善に努め非常時經濟を確立いたしませう。
- 四、作業の能率を増進し、出炭報國の實行に邁進いたしま
せう。
- 五、出征遺家族に對しては懇ろに慰問奉仕致しませう。

尙同坑では各所に大文字スローガン或ひはポスターを掲揚
し全從業員には約七萬數千のパンフレット、リーフレット
ピラ等を配布し餘興として事變に因む博多二和加及事變ニ
ューズ軍事劇を上映し五百人には福引景品券を贈呈した
(日本鐵業新聞)

東 報

支那の埋藏炭量と 北支出炭高

皇軍の北支平定も、次に來るものは
北支資源の開發である、北支資源中最も重
要視されているものは礦産物で殊に石炭は
資源中の重要なもの、一つである、支那
は世界屈指の石炭國であつて而も北支五省
に於て全支那埋藏炭量の五七%を占めてい
る、全支埋藏炭量は

支那各省別石炭埋藏量	埋藏量	割合
省 名	百萬噸	%
北支五省	四七、五五	一〇七・〇
山東	二二、九四	五〇・七
山西	一三、一七	三〇・六
河北	一〇、七六	二四・六
察哈爾	八、四九	一九・九
綏遠	七、八三	一八・三
北支五省計	二八、九三	六七・七

其他	其他
陝西	一、〇〇
四川	一、三三
河南	一、八八
湖南	二、八八
甘肅	二、八八
寧夏	一、〇〇
雲南	一、〇〇
貴州	一、〇〇
江西	一、〇〇
福建	一、〇〇
湖北	一、〇〇
安徽	一、〇〇
廣東	一、〇〇
江蘇	一、〇〇
浙江	一、〇〇
其他計	一、〇〇
合計	一、〇〇

てゐる。民國廿二年(昭和八年)民國廿三年
(昭和九年)の二ヶ年間の出炭高を各省別に
示せば左の通り

河 北 省 (單位噸)	炭 礦 縣 名	民國廿二年	民國廿三年
河 北 省 (單位噸)	開 礦	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	井 陘	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	正 定	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	門 頭 溝	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	柳 江	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	長 城	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	怡 和	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	中 同	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	臨 城	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	興 房	一、〇〇〇	一、〇〇〇
其 他	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
無煙炭合計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
有煙炭合計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
總 計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
察 哈 爾 省 (單位噸)			

炭礦縣名	民國廿二年	民國廿三年	綏遠省(單位噸)
實興	35,400	35,400	
天興	3,270	3,270	
原興	1,570	1,570	
其他	5,876	12,525	
其他	9,658	13,525	
其他	3,000	3,000	
其他	2,100	2,100	
其他	1,100	1,100	
其他	1,500	1,500	
其他	1,900	1,900	
其他	2,600	2,600	
其他	3,200	3,200	
其他	4,500	4,500	
其他	6,500	6,500	
其他	8,000	8,000	
其他	10,000	10,000	
其他	12,000	12,000	
其他	15,000	15,000	
其他	18,000	18,000	
其他	22,000	22,000	
其他	28,000	28,000	
其他	35,000	35,000	
其他	45,000	45,000	
其他	58,000	58,000	
其他	75,000	75,000	
其他	98,000	98,000	
其他	125,000	125,000	
其他	160,000	160,000	
其他	200,000	200,000	

交城	陽城	廣靈	高平	長子	文水	左雲懷仁	瀋陽	孝義	其他	有煙炭合計	無煙炭合計	總計
六,200	六,800	三,500	三,000	三,500	三,500	一,九,八五〇	八〇,五〇〇	五,一七五	一,一,一〇〇	一,一,五〇〇	一,一,五〇〇	一,一,五〇〇

労働争議、小作争議 事變以來激減

戦時體制下の非常時日本の意氣は労働争議、小作争議にも反映して昨年比し總體的に減少し舉國一致の緊張振ぶりを見せてゐる。一日發表された内務省の統計による労働争議件数は本年度十月迄の累計は一

、九五六件参加人員二〇六、六三一で前年の一、六一一件、参加人員七五、七三五に比し若干多いが支那事變勃發してからは著しく減少、十月中の發生件数は僅かに五九件、昨年同期の一三三件よりグッと減り参加人員も前年の四、五四三人が一、六〇〇人と云ふ約三分の一になつてゐる

更に十月中争議の要求事項をみれば賃上要求、減額反對が十六、解雇反對、復職要求六、退職手当確立、増額一四その他一五件となつてをり之が又昨年比し何れも半減してゐる、小作争議も九月迄の累計三、八四九を前年の三、〇八七に、九月中の發生件數七四を前年九月の一三六件に比れば殆ど半減してゐるが、之等は何れも六月迄は前年を凌加してゐた、賃上争闘その他の争議が事變と共に國をあげての緊張する國家意識を強烈に反映した結果で興味深いものがある (中外商業)

洞海湾石炭積出の一元化

年間二千万トンの 石炭積出を計畫

縣營藤木埋立地を利用

筑豊炭輪送陣の整備、積出能力の増大は筑豊炭五ヶ年増産計畫による二千万トン送炭實現の鍵を握るものとされて筑豊炭田は勿論、北九州重工業地帯、遠く阪神工業地帯から注目されてゐるが、今回内務省洞海湾修築事務所が整備され洞海湾の活用促進の見地から關係者に提唱して若松市藤木の縣營埋立地二百万坪を利用して總工費約二千万圓を投じ年間二千万トンの石炭積出實現計畫に乗り出すことになつた、同事務所が意圖する計畫内容は若松市の現在積出設備(年間七百万トン)戸畑市牧山(年間百万トン)同新川(年間四百万トン)を一ヶ所に集め洞海湾石炭積出しの一元化をはかることによつて牧山、新川、若松の海岸線を商港として活用せんとするものである、右につき同事務所では語る

洞海灣の航路が整備されても現在の設備では十分に活用することは出来ない。ある、石炭積出に主要海岸線がござる。てゐるのでこれを一夕所に集結し最新設備を施すことは筑豊炭田の大増産を可能ならしむると同時に洞海灣が一大商港として十分活用されてくるのである。一方では鹿兒島本線博多、門司間の貨物輸送は石炭輸送が三分の二を占め關門トンネル開通の曙は複々線に擴張せねばならぬ状態となつてゐるので、この際石炭輸送を全部筑豊線に廻せば貨物輸送は非常に緩和され増線の心配も解消するわけである、地元各市、石炭関係者はこの實現を待望してゐるが費用は千萬圓の巨額に達するので財源の點で二の足を踏んでゐるから、こちらでは適當の財源捻出方法を考慮してゐる、今から計畫に着手して五年後には完成するだらう。(大阪朝日)

石炭増産能力

調査委員會設置

消費合理化と資源開發

商工省では製鐵、人造石油製造業その他一般工業の増産計畫の進展に鑑み石炭の品質別、用途別、埋藏量およびその生産力を明かにし、もつて石炭消費の合理化、石炭資源開發の調整に資せんがため石炭増産能力調査委員會を設置して調査せしむることになり卅日委員會官制を公布、一日附で委員の正式任命を行ふはす

【會長】商工次官村瀬直養 【委員】企業院部長東榮二 ▲商工省鑛山局長小金義照 ▲商工書記官山本茂 ▲商工技師松木彬 ▲燃料局事務官柳原博光 ▲燃料研究所技師伴義定 ▲九州帝大教授永積純次郎、山縣愷介 ▲東京帝大教授佐野秀之助 ▲北海道帝大教授佐山總平 ▲古田慶三 ▲堀内敏曉 ▲勝俣英 ▲川島三郎 ▲藤井暢七郎 (大阪毎日)

黒ダイヤの寶庫、筑豊地方は未曾有の石炭景氣に見舞はれ寸尺の地さへ共鑛區權の設定を見ざる土地はないと云はれて居り直方稅務署管内(直方、鞍手、田川)丈けでも採掘百六十一鑛區、試掘五十五區計二百十六鑛區に達し其面積は採掘六千九百七十五萬坪、試掘千六百七十四萬坪計八千六百四十九萬坪(二萬八千八百三十町步)と云ふ膨大で同署では近く鑛區稅を賦課すべく目下調定中であるが稅額は採掘鑛區約四萬二千圓、試掘鑛區約三千七百圓合計四萬五千七百圓餘に達して居り鑛山稅は明年一月調定の筈であるが出炭激増を見て居る事とて四十五萬圓を突破するものと見られて居る (筑豊毎日)

鑛夫募集成績不振

特に小炭山に於て著し

福岡鑛山監督局調査——管内鑛夫募集状況を十月十五日基準に前後各一ヶ月間、常時鑛夫三百人以上を使用する石炭山三十六に就き調査したところによると、前期は募集人員豫定數七千四百五十二人に對し、應募

者六千二百九十七人、採用者五千五百五十一人で、後期は募集人員豫定數七千四百九十人に對し應募者六千二百二十五人、採用者五千四百七十七人で、應募者の絕對數に於て後期は減少し、募集人員豫定數の増加を含む相對數においては後期の成績は一層の不振を示してゐるが、特に此の傾向は小炭山に濃厚で常時鑛夫三百人以上未滿を使用する石炭山十六に就き調査したところによると前期は募集豫定數千五百六十七人に對し應募千五百十五人、採用千三百八十八人で、後期は募集豫定數千六百人に對し應募千七百七十二人採用千四百人となつて居り、鑛夫募集の困難は何等改善の兆を示してゐないことが判明するに至つた

募集方法	期間	應募者	採用者
緣故募集	前	四〇四三	三、五〇九
供給請買人	後	三、八二七	三、三〇一
利用する募集	前	五七	五〇
募集	後	五九五	五七
募集	前	一、四八二	一、三三三
募集	後	一、八二一	一、三九二
職業紹介	前	一〇三	九六
職業紹介	後	一、五〇	九六
其他募集	前	六	六
其他募集	後	六	六

鑛區權設定

黒ダイヤの寶庫筑豊地方

直方稅務署の鑛區稅四萬五千餘圓

計	前	後
合	六、五七	五、五二
	六、三五	五、四七

(福岡日日)

人飢饉の炭田に

第一次補勞隊來る

成績次第で全炭山に移入

國策遂行の必要上一大増産の責務を感じ、他方肝心の勞力不足に困惑した筑豊石炭鑛業互助會はこれが打開策として就勞時間延長、婦女子の入坑禁止緩和方など、もに鮮人稼働者の大量採用を計畫、内務省にその斡旋方を要望してゐたが内務省も筑豊炭田の切實な叫びに動がされて今回東京市職業紹介所の斡旋で東京在住の鮮人十八家族、八十名を第一次補勞隊として炭田に送ることになり、これ等銃後産業勇士は多大の期待裏に八日鞍手郡木屋瀬町金丸鑛業所高江炭坑に來坑した

當分同坑で試験的に使用してみた上で成績が良ければ引續き筑豊全炭山に大量移入して増産の目的を達成する計畫である (大阪毎日)

十万の炭田従業員で

産業報國機を獻納

中鶴一坑従業員

大會で提唱決議

今次事變の重大性に鑑み遠賀郡中間町大正鑛業中鶴一坑従業員三千名は監督局主催の産業報國運動を恒久的に實施すべく十一月前十時より記念館に従業員大會を舉行宣言決議などの後産業報國機獻納を筑豊炭田従業員十万人に提唱運動を行ふことを決議する (大阪毎日)

八幡製鐵所が

池野炭坑買収

日鐵八幡製鐵所では大阪靜鑛業所の經營にかゝる佐世保市外大野村池野炭坑は二坑の買収を計畫し豫て極秘裡にこれが交渉中のところ愈よ此の租賃の正式契約成立し去る一日引渡しか受けた同炭坑は資本金三百萬圓の前記靜鑛業所の所有にかゝるものであるが今回の買収額は約三百五十萬圓と云はれてゐる (日本工業新聞)

商工省所管十三年度

燃料關係豫算

商工省所管十三年度豫算は大藏省第一次査定に於て四千三百八十一萬四千圓を承認されたが燃料關係のものは左記六項目八百三萬八千圓である (單位千圓)

- 一、石炭増産計畫遂行に關する經費 一六六
- イ、鑛業監督の機能の充實費 七六
- ロ、石炭坑爆發豫防試驗場設置費 八九
- ナ、増産五ヶ年計畫遂行については政府は補助金制度を設けず民間業者の増産計畫を指導促進することをもつて根本方針としたが繁忙に伴つて起る災害事故の防止その他につき右經費を投することに於ては、鑛業監督の擴充の爲めには筑豊、北海道二ヶ所、宇部、秋田、新潟各一ヶ所に監督局分駐所を設置して監督に遺漏なきを期する、又炭坑爆發豫防試驗場は札幌及び福岡縣直方に設置し各鑛區の具體的條件に基き豫防方法を研究することに於てある

二、液體燃料自給促進に關する經費

イ、内外石油資源開發に關する經費

- 一、〇一六
- ロ、人造石油綜合的製造方法の工業化試験に關する經費 八
- ハ、人造石油製造事業振興費 一〇四
- ニ、帝國燃料興業株式會社出資金及び配當補給金 五、二七五

内 譯

- 帝燃出資金 五、〇〇〇
- 配當補給金 二七五
- 石油資源開發に就ては燃料局案の五ヶ年計畫は飽くまで貫徹の方針であるが豫算編成上本年度分は一ヶ年分を切離して百一萬六千圓を計上したが右は試掘補助金に充當される筈で既定七ヶ年計畫の助成金七十一萬圓を加へて十三年度百七十二萬六千圓が投ぜられるのである、人造石油工業化試験費は十三年度以降三ヶ年に五百萬圓を豫定されてゐるが十三年度は準備費として八千圓が投ぜられたのである、人造石油事業振興費十萬四千圓は十三年度中の助成金である(日刊工業新聞)

鑛業警察權は

一まづ現状維持

商工省所管の鑛山に於ける「労働衛生」專務は新設される保健社會省に移管されることとなつてゐるがこれと密接な連關ある鑛山警察の問題に關しては多年の懸案であるにも拘らず一先づ現状のまま、商工省所管として殘されることに決定した。

即ち内務省では相繼ぐ鑛山慘禍の原因は何れも鑛山監督行政が會社側の立場に有利で労働者の災害防止監督については行き届かぬ憾みがある結果であること、河原田内相當時より商工省側に呼びかけ鑛業法並に同法に附屬する鑛山警察規則の大改正を企圖すると共に鑛山警察權の内務省移管を要望しその具體案作成が急ぎつゝあつたが、これに對し商工省側では各地方鑛山監督局下に出張所を設ける事とし従來の巡視制度の缺陷が常駐制を加味せる分駐制度を以て補ふの案を樹て、明年度豫算に計上既に大藏省の承認を得たので茲に鑛山警察權の内務省移管問題は一應解消の形となるに至つたものである

互助會各炭礦の

鑛業報國運動

福岡鑛山監督局主催の管内山口、九州各縣下鑛業報國運動は石炭鑛業互助會がトツプを切つて十三日から十九日迄を強調週間とし

國力戰の現代戰爭終局の勝利は産業戰である、この産業原動力の石炭の採掘に當る者の責務や重大で一塊の石炭がよく國家の興亡に及ぼすを銘記せよ。

- 一、鑛山従業員大會
- 二、ラヂオ放送
- 三、就業前坑長訓示、東方遙拜の勵行
- 四、無駄排除、事故防止、能率増進、出勤獎勵
- 五、災害防止、作業合理化に關する研究會

座談會

- 六、勞務管理の整備に一層の努力を拂ふこと
- 七、移動の減少を期すこと
- 八、福利的施設の整備改善に努むること (九州日報)

鑛山監督局

分駐所新設

石炭山を始め金屬鑛山の増産對策は非常時局を契機として熾烈に論議されつゝあるが之を必然的に併行推議する虞のある災害の防止に關し根本的對策として監督局機構の改革と監督要員の能率的配備を目的とする分駐所の新設並に爆發豫防調査所の擴充が緊急策として福岡鑛山監督局から商工省に提案されてゐたところ、愈々明年度豫算に之が計上されその實現はほとんど確定的となつたが、同局では着々準備工作を進めつゝあり、明年十月頃から陣容を整備し、本格的にこれ等劃期的施設が實行に移されるものとみられてゐる、かくて長年鑛業警察權を繞る内務省對商工省との相剋は此處

に一應大團圓をつげるに至り、鑛山監督局は消極的態度を一掃鑛山の現地指導探礦獎勵、瓦斯炭塵調査、鑛業災害調査等に積極的に乗出す事となつたが、所謂消極的監督行政から積極的指導助長行政への一大質的轉換として注目される、福岡鑛山監督局の有する實行案は左の如し

調査總日數 △石炭山及び金屬非金屬一般監督四、七七二日 △災害調査八七六日 △雜件調査三四六日、總計五、七九四日

分駐所の機構

設定箇所	技師及技手	其他要員	受持鑛山數
飯塚	三名	四名	四七
直方	三名	四名	二七
後藤寺	三名	四名	二五
佐世保	三名	四名	六五
宇部	三名	四名	三九
計	十五名	二〇名	一〇三

災害防止の指導的調査に於ては一ヶ年延日數五千九百四十四日人員五十七名となつてなり現機構下に於ける調査日數六百日内外に過ぎざるに比すれば著しき擴充である尙分駐所は管内炭鑛の分布状態からみて密集地帯に設定するもので要員を監督局に集中常備

せず分敷常駐せしめることによつて能率的に人員の配備を計る意味で劃期的意義を有する (福岡日日新聞)

若松彦島を繋ぐ

一大築港準備

内務省下關土木出張所では關門海峡通航船舶の便宜を計るに共に將來の大飛躍に備へて、若松彦島を連ね、瀬戸海峡を包む名實共に一大良港を築造すべく着工準備を進めてゐるが、愈よ來る十八日東大教授山口昇博士の來關を求め、防波堤築造の位置その他について具體的調査案の協議を行ふことになつたが、之に依るに總工費約一千餘萬圓、十ヶ年繼續大事業で第一期工事として現在工事中の若松地先防波堤を延長するに、相對した彦島に新築堤を築造する計畫で第二期工事としては長府沖に數ヶ所の大突堤を築造急潮を堰止める方針で協議の結果愈々具體化を見るものとして注目されてゐる

刈田町も大修築

福岡縣刈田港は筑豊炭田を背後に有しそ

の積出港として逐年發展を告げてなり、同港將來の躍進を豫想して大工場を設置せる豊國セメント、九州曹達會社等では同町當局と協力して築港計畫を樹て最近當局の認可を得て一部港灣工事を施工しつつあるが、かかる小規模の計畫では到底同港を充分に活用することは出來ず、之がためには大修築工事を進め近代港灣施設を具備するを急務とされ、かねて關係方面より當局に向つて之が實現のため猛陳情が行はれ今日に至つたが、最近内務、鐵道、商工の各關係各省では専門的立場より各港の將來に就き詳細に調査を行ひ、國策的見地よりして各港を以て大工業港ならしむるに如かずとの結論を得たので、更に今後之が具體化に就き鋭意研究を進めることとなつた

即ち内務省は多年抱懷せる工業港建設の急務から、商工省は燃料節約から、又鐵道は運賃節約及び交通上の點から、愈々同港を工業港ならしむる事を主張してゐるものでそれらを要約すれば次の三項よりなるが、一、小港の刈田港が一躍政府の認むるところになり、大工業港建設の曙光を見出すに至つた事は別に注目を與へてゐる

一、石炭運賃の低減 現在筑豊炭は大體瀬戸内海一府十一縣、即ち大阪、和歌山、岡山、廣島、山口、愛媛、香川、徳島、高知、大分、宮崎に輸送されてゐるが若松港より刈田港とを比較すると刈田港が若松港より適當り三錢低廉、更に陸運賃に於ても刈田港は若松港より低廉なる炭礦を豊富に有し瀬戸内海各地に送達する限り絕對に若松港より有利且つ約當當り七、十錢低廉なり

一、關門海峡の混合緩和 八幡製鐵所の擴張に伴ひ洞海湾は年々甚しく峽隘となり加ふるに戸畑、小倉兩市の諸工業の擴大せるに従ひ、船舶輻輳之がために蒙る物資の損害は約三百萬圓に達して居り、速かに之が轉換整理の方法を講せずば帝國の資源を貧弱ならしむる大問題に逢着する

一、一朝有事に處する港灣として 北九州工業地帯が洞海湾を中心として密集しつつある現状にあつては非常時に備へ刈田港の具備が痛感されてゐる (門司新報)

石炭鑛業權設定 (自十一月二十二日)

福岡鑛山監督局管内

登録番號	鑛區所在地	面積	鑛業權者住所氏名	登録月日
熊本 三〇三	玉名郡睦合村築山村大野村地内	五七、〇〇〇	宇部市小串	一〇、一五
長崎 五九九	西彼杵郡崎戸町地先海面	九〇、一六	東京市麴町區丸ノ内二丁目	一〇、一五
全 五八六	南高來郡南有馬村北有馬村四有家町並ニ海面	九三、九〇〇	九州炭礦汽船株式會社	一〇、一六
福岡 六四〇	三井郡立石村太刀洗村地内	九七、一〇〇	佐賀縣藤津郡久間村	一〇、一六
全 六〇六	直方市地内	五七、〇〇〇	八幡市西前田京町三丁目	一〇、一八
全 六〇七	粕屋郡篠栗町勢門村久原村地内	一四三、一〇〇	福岡縣粕屋郡勢門村	一〇、一〇
長崎 五八三	北松浦郡櫻島村並ニ海面	八五、七〇〇	福岡市地行東町	一〇、一〇
山口 四三〇	美禰郡伊佐町岩永村地内	六九、〇〇〇	宇部市東區綠橋通一丁目	一〇、一三
全 四三三	豊浦郡西市町豊田前村地内	六七、〇〇〇	福岡市土手町	一〇、一三
全 四三三	宇部市並ニ海面	六三、〇〇〇	山形縣北村山郡楯岡町	一〇、一三
全 四三三	宇部市地先海面	八五、〇〇〇	宇部市沖宇部	一〇、一三
全 四三三	豊浦郡吉見村安岡町並ニ海面	九五、〇〇〇	福岡市船津町	一〇、一三
全 四三三	豊浦郡吉見村地先海面	九六、〇〇〇	安岡町地先海面	一〇、一三
佐賀 三二八	三養基郡麓村旭村地内	四〇、一〇〇	福岡市西堅粕六丁目	一〇、一三
			大田眞佐子外一人	
			小林竹三郎外二人	
			高須重彦外一人	
			山口 慶八	
			谷 六一郎	
			合屋佐太郎	
			菅原誠外一人	
			大野 芳造	
			西村藤次郎	
			喜 早 睦	
			福永 虎介	
			上田芳人外一人	
			同 人	

福岡	六〇九	八女郡忠見村長峰村上妻村川崎村地内	六九,〇〇〇	神奈川縣鎌倉郡片瀬町	北條傳四郎外三人	一〇,〇〇〇
佐賀	三一九	西松浦郡大川内村杵島郡住吉村地内	五〇,〇〇〇	佐世保市城山町	野見山治郎衛門	一〇,〇〇〇
福岡	六四三	粕屋郡立花村地内	三〇,〇〇〇	大阪府北區富田町	柴林 江ッ	二,〇〇〇
全	六四三	遠賀郡岡垣村地内	五五,〇〇〇	福岡縣若松市櫻町六丁目	株式會社宮川陽元商店	二,〇〇〇
沖繩	九〇〇	八重山郡竹富村地内	五八,〇〇〇	沖繩縣八重山郡竹富村	仲谷 正主	二,〇〇〇
福岡	六四四	遠賀郡岡垣村遠賀村地内	三九,〇〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	三菱礦業株式會社	二,〇〇〇
全	六四四	遠賀郡蘆屋町並ニ海面	八四,七〇〇	岡垣村地先海面	同	二,〇〇〇
山口	四四〇	宇部市地先海面厚狹郡小野田町地先海面	九八,〇〇〇	宇部市中字部	德永敏夫外一人	二,〇〇〇
佐賀	三三三	佐賀郡久保田村小城郡牛津町芦刈村三日月村地内	九五,〇〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	東杵島炭礦株式會社	二,〇〇〇
全	三三三	小城郡芦刈村砥川村杵島郡江北村福富村地内	九七,七〇〇	福岡市春吉	小林 半次	二,〇〇〇
福岡	六四七	三藩郡荒木村三井郡上津荒木村地内	五三,八〇〇	福岡市麴町區丸ノ内二丁目	九州炭礦汽船株式會社	二,〇〇〇
長崎	五六五	西彼杵郡崎戸町地先海面	九八,五三三	東京市丸麴町區ノ内一丁目	北海道炭礦汽船株式會社	二,〇〇〇
佐賀	三三三	杵島郡六角村南有明村須古村錦江村地内	九五,三〇〇	福岡市海岸通五丁目	福島安太郎外一人	二,〇〇〇
長崎	三六七	西彼杵郡香燒村並ニ海面	九五,六〇〇	東京市麴町區丸ノ内一丁目	北海道炭礦汽船株式會社	二,〇〇〇
佐賀	三三四	杵島郡江北村六角村大町町白石町地内	一〇〇,〇〇〇	同	同	二,〇〇〇
全	三三五	杵島郡大町町六角村白石町須古村地内	九四,〇〇〇	下關市上田中町	榎本重三郎	二,〇〇〇
熊本	三〇三	天草郡福連木村植字土村本村都呂々村地内	五九,九〇〇	佐世保市園田町	藤原虎一外一人	二,〇〇〇
福岡	六四二	筑紫郡春日村安德村日佐村岩戸村地内	九七,〇〇〇	飯塚市立岩	株式會社麻生商店	二,〇〇〇
全	六四二	遠賀郡遠賀村芦屋町岡垣村地内	八三,〇〇〇	同	同	二,〇〇〇
全	六四二	福岡市早良郡田隈村地内	六六,〇〇〇			二,〇〇〇

全	六四五	筑紫郡那珂村福岡市地内	七四〇,〇〇〇	福岡市住吉宮島町	長尾安一郎外二人	二,〇〇〇
全	六四六	筑紫郡日佐村那珂村福岡市地内	九一,〇〇〇	福岡市春吉	緒方 行夫	二,〇〇〇
全	六四七	福岡市地内	七五,〇〇〇	福岡市横尾免	同	二,〇〇〇
全	六四八	早良郡入部村 村地内	四〇〇,〇〇〇	佐世保市横尾免	同	二,〇〇〇
全	六四九	朝倉郡夜須 三輪村地内	一,〇〇〇,〇〇〇	福岡市春吉	小林 半次	二,〇〇〇
佐賀	三三六	小城郡小城町牛津町三日月地内	三三,一〇〇	海面北有明村地元海面福岡縣嘉穂郡大隈町	久恒得郎外一人	二,〇〇〇
全	三三七	杵島郡福岡村地元	九八,九九〇	大阪府北河内郡三郷町	高須重彦外一人	二,〇〇〇
長崎	五六八	南高來郡口之津町並ニ海面	九四,五〇〇	山口縣熊毛郡三井村	山本庸彦外二人	二,〇〇〇
全	五六九	北松浦郡福島村並ニ海面	四四,〇〇〇	福岡縣嘉穂郡千手村	久家カツヨ	二,〇〇〇
福岡	六四〇	直方市地内	三二,〇〇〇	佐世保市日安福石免	荒木篤彦外二人	二,〇〇〇
長崎	五六三	北松浦郡福島村佐賀縣東松浦郡切木村並ニ海面	四四,五〇〇	東京市灘谷區代々木山谷町	近間通造外一人	二,〇〇〇
福岡	六四三	遠賀郡岡垣村地内	三九,〇〇〇	宇部市沖字部	山田新松外一人	二,〇〇〇
全	六四四	鞍手郡小竹町地内	三六,六〇〇	直方市日吉町	上田直外一人	二,〇〇〇
山口	四四〇	吉敷郡西岐波村宇部市並ニ海面	五五,〇〇〇	大阪府北河内郡三郷町	高須重彦外一人	二,〇〇〇
長崎	八七三	東彼杵郡萱瀬村地内	九九,〇〇〇	同	同	二,〇〇〇
全	八七五	同	九八,五〇〇	同	同	二,〇〇〇
全	八七六	東彼杵郡萱瀬村于綿村地内	九四,〇〇〇	同	同	二,〇〇〇
全	八七七	東彼杵郡福重村干綿村萱瀬村地内	九四,〇〇〇	同	同	二,〇〇〇
全	八七八	東彼杵郡萱瀬村福重村地内	九〇,〇〇〇	同	同	二,〇〇〇

互助會詩歌俳柳壇

漢詩

支那事變所感

神風一怒水飛天。 十萬忽沈蒙古船。
今昔回顧感慨深。 神州武威輝宇內。

(屏山)

和歌

題、勝軍

日の丸の御旗仰きて勇ましく勝鬨あけて祝ひ酒くむ。
(屏山)
勝軍北支の地圖をかこみゐてはなし長城へゆきてたゝかふ
(五城窓)
勝ち續く戦のニュース聞く朝は打ち振る手足さわやかに高
(全)

ひたぶるにつき進み來し山川のうれひ極りて萬歳の聲。
(五城窓)
日の丸にやすけし支那の農民等秋の日を浴び柵つみてをり
(全)
南京の陥落にみちて人と灯が血脈のごと流れつゝをり。
(全)
天津風日の丸の旗むかふ野はなひかぬ草もなかりけるかな
(角三)
仇を追ふ戦のひまも武士はこまの手いれを忘れさらなむ。
(全)
夕にはひとしろぬきてあしたには仇のとりてを蹴散らして
(全)
ゆく。
仇はみなうちしりぞけて江南の御空に清きあきの夜の月。
(全)
外國のはたのこかけにひそむともあたはいかてかのかさ、
(全)
らしむ。
としのせやまのちまたに支那まけたしなはまけたてにき
(全)
はひにけり。
(全)

戦にかつともころゆるめるなよにはらくろきくにもあり
せば。
(角三)

仇國の都の空をわかものとして亂舞の海の荒わし。
(全)

仇の弾たはしるなかをまつしくらすゝみてあくる日の丸の
はた。
(全)

遠つ國の華と散りける武士の御靈に告げむ今日の勝利を。
(柴川)

からくにのむら雲消へて平和なるあかつきちかき戦勝の跡
(全)

翻る古城に高き日の丸は大和男子の血に輝けり。
(全)

はらからの血潮ながせし北支那に産業戦は今ぞひらけぬ。
(全)

高粱のかぐろくそよく岡の邊に銃捧げ振る勝ときの聲。
(全)

すめ國の猛き男の子の勝軍ひたすら祈る神の大前。
(淺繪)

我も又大和をみなよ君のため征きし武人のいさをしを待つ

あな尊君のみいづに四方の海波しづまりて御軍の勝てり。
(全)

戦へば唯勝ち進む皇軍のいさをうれしき朝ぼらけかな。
(全)

風荒き胡地に銃取り國のためつくす男の子は常に勝ち行く
(全)

けふも亦わかみいくさは勝ちにきと告ぐるラヂヲを謹みて
聞く。
(杉堂)

城の上にたかくかかぐる日の丸のはたひるがへる朝風清し
(全)

大空もさけよとあくるかちときはいま乗りとりし城をとよ
もす。
(全)

冬空に萬歳の聲天を衝き城頭高く日の丸の旗。
(白刃)

肉弾で攻め落したる敵の陣天にとろく勝鬨の聲。
(全)

一針に力をこめて千人の弱い女の強いまころ。
(千草女)

戦勝の初春祝ふ松かざり軒毎に聞く軍歌の合唱。

俳句

題、出征(秋季)

琴月園雷鳴雲先生選並添削

- 秋晴や征途感聲天を衝く。(角三)
- 出征の傳來寶刀秋さむし。(全)
- 秋晴に親兄弟の征途かな。(全)
- 大和男の征途祝ふや秋晴る。(全)
- 子の出征送りて翁山田疇る。(全)
- 初潮を切つて海軍征途かな。(全)
- 古郷の月を名残りの出征かな。(全)
- 送らるも送るも旗や菊日和。(紫川)
- 征兵のゆく街旗に咲く野菊。(全)
- 出征の萬歳の聲秋高し。(全)
- 眉宇深く膺懲なりし秋の暮。(全)
- 出征の友にちかふや菊日和。(全)
- 出征の門出に祝ふ菊の酒。(全)
- 出征のフランスバンドや秋時雨。(紫川)
- 天に代へ不義兵を打つ征の秋。(全)
- 出征旗はためき過ぐる秋の空。(全)
- 出征の旗續きぞり柿紅葉。(浅繪)
- 勇ましく君の門出や秋櫻。(全)
- 秋高し征途の旗のひるかへり。(全)
- 出征や旗風強く日本晴れ。(全)
- 菊の國妻子を後に我れ征途。(全)
- 出征の門出の秋や支那を呑み。(全)
- 感激す出征の波止場夕風けり。(屏山)
- 出征の榮のニユースや菊の秋。(白双)
- 秋風や勝つて來るぞと赤襷。(智雄)
- 出征や見送る妻に秋時雨。(菊蘭女)
- 子のほまれまつや絲瓜のわびづまひ。(全)
- 出征や旗の波間に菊かほる。(千草女)
- 出征や長男産みし秋のよひ。(全)
- 旗を立て征馬いなく枯野かな。(鐵佛)
- 傳來の刀ひつさげて花野哉。(全)

出征(冬季)

- 陥落の跡コウリヤンの焚火哉。(角三)
- 遺骨せをひ弟の征途や北の風。(全)
- 勳功を立てし勇士に冬の月。(全)
- 病妻も出征祝ふや冬のよい。(全)
- いかめしき軍旗に集ふ雪の街。(菊蘭女)
- 出征やいさみにいさむ雪の朝。(全)
- 貴賤なく出征にいさむ雪の朝。(鐵佛)
- 兵送る若戸の渡船や北の風。(紫川)
- 熱狂の見送り人や冬の月。(全)
- 返り花軍装はれの日本刀。(全)
- 勝つて來るぞいふ征兵に霜冴ゆる。(杉堂)
- 出征や眞綿チョツキは母の慈悲。(全)
- 返り花應召後備征途かな。(全)
- 出征を見送る旗に冬の蝶。(千草女)
- 初夢に戦の夫と語らひぬ。(全)
- 寒空に征くますらをや旗の海。(白双)
- 出征のかとてを祝ふ松かさり。(全)
- 出征旗振る驛頭や小春風。(屏山)
- 出征の旗をあやなす玉あられ。(智雄)
- 送られる送る萬歳霜の朝。(全)
- 川柳
- 題、千人針
- 敵弾は千人針をそれて飛び。(屏山)
- 突撃も千人力と勇みたち。(全)
- 千人のまこゝろこめしコノ肌着。(全)
- 千人針縫ふに老若貧富なし。(五城窓)
- 敵のたま千人の女に目がくらみ。(全)
- 高野山千人針の用はなし。(凸坊)
- 花嫁を千人針で一寸止め。(全)
- 尼寺は千人針で大當り。(全)

千人針の御かけで裁縫手があがり。 (凸坊) 子を負ふて千人針のにぎやかさ。 (浅繪)

千人針見事にとむる敵の弾。 (全) 寅年と言ひたじ年はかくしたし。 (全)

濕き情千人はりにとめ。 (全) 向ふ張りて千人力の筆持てり。 (紫川)

支那のたま千人針はさけて飛ぶ。 (全) 寅年は千人針に頬を染め。 (全)

千人針巻きて支那兵團子刺。 (全) 千人針此れ見よがし妻の顔。 (全)

千人針寅年女當り年。 (全) 千人針止めの一針菱が縫ひ。 (全)

千人針用達しに遅れた下女ほめられる。 (全) 千人針寅年の女もてること。 (杉堂)

千人針縫ふ手に上手下手もなし。 (全) 断髪も千人針の敷に入り。 (全)

千人針急ぐ女も足を止め。 (山男) ハイヒール千人縫をけむたがり。 (全)

人だかり男ものぞく千人針。 (全) 千人針縫へない男に力あり。 (日本晴)

千人針着けて飛出す決死隊。 (山男) 日本兵みな千人針で恐ろしい。 (全)

敵弾は途中せんにん針をつけ。 (全) デパートの入口ふさぐ千人縫。 (白刃)

千人の針で彼女の誠知れ。 (山男)

孫に手をひかれて千人針へゆき。 (浅繪)

千人の力あふれて弾丸を止め。 (全)

女房もマダも同じ針の敷。 (全)

千人針父様ですと涙ぐみ。 (全)

南無八幡千人針をぐつとしめ。 (全)

炭界日誌

十一月十六日(火)晴
 △若松石炭商組合代議員會開會
 △茂野石聯常務理事は本日門司俱樂部に於て宇部肥筑鐵業會理事と會見増産計畫につき懇談した。
 十一月十七日(水)晴
 △撫順炭の入荷不足量は四十五萬噸に達すと業界各紙報道す。
 十一月十八日(木)晴、時々曇
 △鮮人労働者約千人を互助會各炭坑に使用することに決し本會では直ちに福岡縣知事に行政上の手續方を要望した
 十一月十九日(金)晴、時々曇
 △末吉炭坑にて石炭噴逆走し採炭夫二名即死△石炭業法制定、吉野商相は石炭の生産より販賣まで一貫統制の必要を感じ石炭業法制定具體案の作成を鑛山局燃料局に命ず十一月二十日(土)曇後晴
 △開平炭の輸入一月以降九月迄累計七十萬六千屯と發表さる。
 十一月二十一日(日)雨
 △金丸會長の第三女で上田靜生氏夫人靜子女史の葬儀は本日午後二時より四時まで大分市萬壽寺に於て盛大に執行された。
 △高松一坑共榮會館に於て福原一等兵の合同葬執行さる。(午後一時より)
 十一月二十二日(月)曇時々晴
 △昭和石炭加盟各社は全名示に對して去る十八日より二圓乃至五圓の大巾値上げを實施せりと日刊燃料工業新聞報道す。
 十一月二十三日(火)新嘗祭曇後雨
 △本社相談役中島徳松氏夫人繁子女史今朝逝去に接し直ちに本社より鍋島、才津原兩人弔問のため出福す。

十一月二十四日(水)曇時々晴

△理事會、午前十時より本社會議室に於て理事會開會正午散會す。

△若松水上警察署に於て石炭船被曳船問題につき協議本社より才津原出席同問題は兩者の互譲によつて圓滿解決す

十一月二十五日(木)曇時々小雨

△西部共同火力の大發電所は本日監督官廳の實地検査を受け愈々本月上旬より關係方面に電力供給をなす豫定。

十一月二十六日(金)曇

△大阪石炭協會臨時評議員會開會。

十一月二十七日(土)曇

△福嶺局主催石炭坑夫補充對策委員會開會本社より風戸主事出席。

△故中島相談役夫人の葬儀手傳のため本社より赤司、才津原兩君出福す。

十一月二十八日(日)曇時々小雨

△中島相談役夫人故繁子女史の葬儀は本日午前十一時より日蓮宗管長大僧正望月日謙親下及身延山久遠寺執事長柴

田魏秀師其他數十名の侶僧の讀經にてしめやかに執行され靈前には東伏見宮家から御下賜の御供物朝野各名士より贈られた吊旗吊花數百基飾られ午後二時より四時まで

一般の告別式を執行されたが近來稀に見る盛大な葬儀であつた本社より葬儀手傳のため風戸主事以下鍋島、赤司才津原、山下、安西の六名が出福した。

十一月廿九日(月)曇

△糸飛久野炭坑瓦斯爆發のため五名重輕傷す。

△石炭生産能力調査委員會官制本日の官報に發表さる。

十一月三十日(火)曇

△鍋島主任は須藤社員を同伴肥筑炭田調査のため出張す。

十二月一日(水)晴

△大洋鑛業會社總會にて代表取締役中村房次郎氏以下新重從陣決定す。

十二月二日(木)晴

△鑛業法改正調査委員會々長商工大臣吉野信次、委員法制局參事官森山銳一商工省鑛山局長小金義照其他某氏を決定す。

十二月三日(金)曇時々小雨

△鑛業報國運動協議會、直方鑛山俱樂部に於て午前十時より開會、武内、田籠、小林三理事及び各所屬炭坑より五十餘名參加十二月五日よりの鑛業報國運動に關して種々協議正午散會した、

十二月四日(土)曇

△午前十時重役會並に理事會開會午後二時半散會す。

△三上炭坑の逃走坑夫の件各炭坑に通知す。

十二月五日(日)曇小雪

△福岡鑛山監督局主催の鑛業報國運動本日より開始す。

十二月六日(月)晴

△本社現務委員會は合同石炭側と共に第一回現務委員會を開き荷役改善其他につき協議す。

△本社分析所(西部棧橋附近)粉碎所機械試運転を開始す。

△日本化學工業は一億二千萬圓に倍額増資し日産化學工業株式會社と改稱することに本日發表さる。

十一月八日(水)曇

△半島八坑夫十五名家族八十餘名金丸高江炭坑に到着す。

△榎本燃料局事務官今朝八幡製鐵所を訪問午後福岡鑛山監督局に向つたが同氏は約十日間の日程で筑豊、北松浦、高島、三池等の各炭坑地を視察の豫定。

十二月九日(木)晴

△京都石炭コークス同業組合役員會開會、價額の統制強化を協議す。

十二月十日(金)曇小雨

△三井田川鑛業所では午前十時より伊田町中央グラウンドに於て鑛業報國從業員大會舉行

十二月十一日(土)晴

△燃料局事務官榎本謙吾氏は筑豊炭坑地方の視察を終へ三井、田川、貝島、大ノ浦の各坑の調査を終へ大牟田、肥前方面の炭坑を視察して歸京の豫定。

十二月十二日(日)晴

△武内專務、末吉取締役、西本理事、風戸主事は炭坑勞働力不足對策其他の要務を帯びて上京す。

△日化運賃鑛業所では本日午前十時より第一第二高松炭坑全從業員二萬餘が兩山の山神社で皇軍戰捷祝賀の感謝祭

を執行した。

十二月十三日(月)晴

△互助會所屬炭坑では鑛業報國運動のトップを切つて本日より廿九日迄を第一回強調週間として全社員が所屬炭坑に出張して大いに強調に努めた。

炭業報國の歌

事變下の鑛業報國運動は西日本鑛業戦士總動員で去る五日華々しく火蓋を切り各地方鑛業團體が音頭を取つて鑛山監督局と共にこれが指導に當り好成绩を納めてゐるが福岡縣下貝島大之浦炭鑛では次のやうな『炭業報國の歌』を作成、勇壯な軍歌調も高らかに銃後産業確守の意氣を示してゐる

(曲は勇敢なる水兵と同曲)

一、暴戻支那を 膺懲の
正義の利劍 振りかざす
見よ、皇軍の 武者振りを
聽け、皇軍の 雄叫びを

二、遂に來れり 非常の日

秋は來れり 起てよいざ

協力一致 諸共に

石炭掘る業に いそしまん

三、産業日本 進展の

基は一つに 石炭にあり

掘れ我友よ 炭坑の華

開け地底の 大寶庫

本當の人間

詩人 パーシズ (英國)

王者は、節帶をつけた勳爵士でも公爵でも侯爵でも伯爵でも、思ひのままにすることが出来るけれども、本當の人間をつくることは出来ない。どんなに高い勳等も爵位も正しい見識と本當の自尊心とに較べては、見劣りがせざるを得ないのだ。

編輯後記

本誌編輯中に突如金丸會長の訃報に接す
上京中の武内専務初め未吉取締役、藤井、木曾、西本各理事、風戸主事等は急電に接して十六日夜歸社、直ちに香月町の會長私邸に自動車を馳せつけ、一同第一夜のお通夜をなし、葬儀委員長松尾代議士、副委員長竹内専務、末永香月町長、相談役野上副社長、高野前代議士、有江伊作氏、顧問北代市治、小林勇平兩氏に決定す。

本年も愈々あと十日に接近した。數年前から喧傳された非常時も、去る七月七日蘆溝橋の日支兩軍衝突事件で支那事變に發展し、名實共に皇軍は、北支は勿論のこと支南支に於て、連戦連捷破竹の勢で全支を

席捲し、忽ちにして上海を抜き、首都南京も陥落して、本月十七日我が戦史を飾る南京入場式を舉げた。

× 今月號は鑛業報國運動號として發行の豫定であつたが、金丸會長急逝のため特に會長の生前の徳を慕ひ、新聞記事其他より一部を掲載することにした。

× 互助會詩、歌、俳、柳壇も今月は相當應募原稿が集り、俳句は特に琴月團雷鳴雲先生が選並に添削をして頂いたので、誌上で厚く御禮申し上げます。新年號にはより多くの投稿を御願ひ致します。

では讀者諸賢來年はよい年を迎へられんことを切望して關筆す。(白牡丹)

互助會報・第二卷・第十二號

購 一冊 金參拾錢 郵税共
半年分 金壹圓八拾錢同上
一年分 金參圓六拾錢同上
料 金は前金の事

昭和十二年十二月十七日印刷納本
昭和十二年十二月二十日發行

若松市本町二丁目

石炭鑛業互助會

發行人 風戸 道康

編輯人 若松市堺町三丁目

印刷人 吉田 万造

若松市堺町三丁目

印刷所 吉田印刷所

電話 六五二番

若松市本町二丁目

發行所 石炭鑛業互助會

電話 長四七〇六九番

鑛山用諸機械

コ	捲	ド	ピ	送	ポ	歴
ール	揚	リル	ツク	風	ン	
カツ		シャ	シヤ			縮
ター		プナ	プナ			
ー	機	ー	ー	機	プ	機



東京丸ノ内・福岡市天神町

昭和十三年四月七日発行 石炭鑛業互助會報 發行所 若松市本町二丁目 石炭鑛業互助會